

若者の結婚観・子育て観等に関する調査 [結果の概要]

国立青少年教育振興機構では、日本の若者の結婚観・子育て観の現状及びそれらに關係する要因を明らかにするため、全国の 20 代から 30 代を対象とした調査を平成 27 年度に実施しました。

この調査では、国立青少年教育振興機構が文部科学省の委託を受けて平成 20 年度に実施した「これから親となる若者の就労観、結婚観、子育て観に関する調査研究」（以下「平成 20 年度調査」という。）の結果も踏まえ、結婚願望や子育て願望を中心に、結婚しない理由や子供の存在についての考え方、過去の体験活動や現在の地域とのつながり等との關係に注目して分析を行いました。

【調査結果のポイント】

「結婚したい」「子供は欲しい」という意識は、子供の頃の「人間的なふれあい」を通じた活動で変わる

ポイント① 小学生の時までの体験が多い人ほど、現在「結婚したい」「子供は欲しい」という傾向がみられる。中でも、「友だちとの遊び」「地域活動」「家族行事」といった特に「人間的なふれあい」と關連する体験が、「結婚したい」「子供は欲しい」という意識と強く關係している。

結果① 小学校の時までの体験が多い人ほど、「結婚している」割合は高くなる。また、体験の種類に注目すると、体験が多い人と少ない人で「結婚している」割合の差が大きくなるのは、「友だちとの遊び」、「家族行事」、「地域活動」の順である。(pp. 21-22)

結果② 小学校の時までの体験が多い人ほど、「結婚したい」割合と「子供は欲しい」割合は高くなる。また、体験の種類に注目すると、体験が多い人と少ない人で「結婚したい」割合と「子供は欲しい」割合の差が大きくなるのは、いずれも「友だちとの遊び」、「家族行事」、「地域活動」の順である。(pp. 23-28)

ポイント② 中学生・高校生の時に異性とのコミュニケーションを面倒だと思っていた人は、現在「結婚したくない」という傾向がみられる。

結果③ 中学生や高校生の時の異性との關係のうち、「異性關係は面倒なものだと思う」については、「とても当てはまる」人の「結婚したくない」割合が最も高い。それ以外の「異性にも自分の考えをはっきり伝えることができる」などの項目については、「全く当てはまらない」人の「結婚したくない」割合が最も高い。(p. 32, p. 34)

若者の「結婚したい」「子供は欲しい」という意識のこの数年の推移は、男女で異なる

ポイント③ 平成 20 年度調査と比較して、若者の「結婚したい」「子供は欲しい」割合は低下している。特に、男性は「結婚したい」「子供は欲しい」割合がともに低下している。一方、女性は「早く結婚したい」人と「結婚したくない」人、「結婚したらすぐにも（子供が）欲しい」人と「子供は欲しくない」人にそれぞれ二分化している。

結果④ 結婚願望について平成 20 年度調査と比較すると、「早く結婚したい」割合が低下し、「結婚したくない」割合が上昇している。性別で見ると、男性では「早く結婚したい」割合が低下し、「結婚したくない」割合が上昇しているが、女性では「早く結婚したい」割合と「結婚したくない」割合がともに上昇している。(p. 3)

結果⑤ 子育て願望について平成20年度調査と比較すると、「結婚したらすぐにでも欲しい」割合が低下し、「子供は欲しくない」割合が上昇している。性別でみると、男性では「すぐにでも欲しい」割合が低下し、「子供は欲しくない」割合が上昇しているが、女性では「すぐにでも欲しい」割合と「子供は欲しくない」割合がともに上昇している。(p.5)

結婚していない代表的な理由は、「経済的に難しい」ことと「一人が楽である」ことである

ポイント④ 結婚していない理由のうち最も割合が高いのは「経済的に難しい」であり、次いで「一人が楽である」となっている。

結果⑥ 結婚していない理由として「経済的に難しい」を挙げる人は6割を超えているが、個人の年収が300万円以上になると「経済的に難しい」を理由に挙げる人は減少する傾向がみられる。(p.8, p.10) また、個人の年収が200万円を下回ると、「結婚したい」割合と「子供は欲しい」割合は低下する傾向がみられる。(p.3, p.5)

結果⑦ 結婚していない理由として「一人が楽である」を挙げる人は約5割であり、男性は女性よりも「一人が楽である」と考える傾向がみられる。また、「一人が楽である」と考える人ほど「結婚したい」割合と「子供は欲しい」割合は低下する傾向がみられる。(pp.8-9, p.11)

子供の存在についての考え方の違いが、「結婚したい」「子供は欲しい」という意識と関係する

ポイント⑤ 子供の存在についての考え方は、「生きがい」を重視する家族観と、家族の「継続」を重視する家族観という、大きく二つの家族観に基づいており、「生きがい」を重視する家族観の方が「結婚したい」「子供は欲しい」という意識と強く関係している。

結果⑧ 子供の存在についての考えは、「家族の結びつきを強める」を挙げる人が最も多く、次いで「仕事や人生の励みになる」、「親を成長させてくれる」となっており、「生きがい」を重視する家族観に基づく考えが上位を占めている。一方、「老後の面倒を見てくれる」や「財産や稼業などを継いでくれる」、「親の夢や理想を託す」といった、家族の「継続」を重視する家族観に基づく考えを挙げる人は少ない。(p.15)

結果⑨ 「生きがい」を重視する家族観は、女性の方が男性よりも強く、既婚者の方が未婚者よりも強く、子供がいる人の方が子供がいない人よりも強い傾向がみられる。一方、家族の「継続」を重視する家族観は、性別や結婚しているかどうか、子供がいるかどうかによる違いがみられない。(p.16)

結果⑩ 「生きがい」を重視する家族観も、家族の「継続」を重視する家族観も、それぞれの家族観が強い人ほど「結婚したい」割合と「子供は欲しい」割合は高くなる傾向がみられる。また、「生きがい」を重視する家族観の方が家族の「継続」を重視する家族観よりも、「結婚したい」割合や「子供は欲しい」割合と強く関係している。(p.17)

地域とのつながりについての行動や考え方の違いが、「結婚したい」「子供は欲しい」という意識と関係する

ポイント⑥ ふだん「近所の人とあいさつをする」といった近所付き合いをしている人や、地域とのつながりに対して前向きな考えが強い人ほど、「結婚したい」「子供は欲しい」と思う傾向がみられる。

結果⑪ ふだん、近所付き合いをしている人は、「結婚したい」割合や「子供は欲しい」割合が高い。特に、「近所の人とあいさつをする」人とそうでない人で、「結婚したい」割合や「子供は欲しい」割合の差が大きくなっている。(pp.36-37)

結果⑫ 地域とのつながりについて、「他人のためにもなるが自分の成長にもつながる」、「これからの良い社会を創るために必要である」などの前向きな考えが強い人ほど、「結婚したい」割合と「子供は欲しい」割合が高い。一方、「責任が重くて大変そうである」などの後ろ向きな考えは、「結婚したい」割合や「子供は欲しい」割合と関係がみられない。(p.40)

調査の概要

1. 調査の目的

日本の若者の結婚観・子育て観の現状及びそれらに関係する要因を明らかにし、少子化対策や青少年教育に資する基礎データを提示する。

2. 調査内容

- ・結婚願望、子育て願望
- ・結婚していない理由
- ・異性との関係
- ・子供の存在についての考え
- ・小学生の時までの体験
- ・ふだんの生活で行っていること
- ・地域とのつながりについての考え 等

3. 調査方法

(1) 調査対象

全国の20代・30代の男女 4,000名

(20代前半、20代後半、30代前半、30代後半の4つの年齢群ごとに男女各500名)

また、回答者の抽出に当たっては、平成22年度国勢調査等を参考に、次の①から④に配慮した。

- ① 性別及び年齢群ごとに、既婚・未婚の割合が実社会の構成比と大幅に異なること。
- ② 性別及び年齢群ごとに、就労・未就労の割合が実社会の構成比と大幅に異なること。
- ③ 回答者の居住する地域ブロックが実社会の構成比と大幅に異なること。なお、地域ブロックについては以下のとおり分類した。

北海道・東北 = 北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 (1道6県)

関東 = 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県 (1都6県)

北陸・甲信越 = 新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県 (6県)

東海 = 岐阜県、静岡県、愛知県、三重県 (4県)

近畿 = 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県 (2府4県)

中国・四国 = 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県 (9県)

九州・沖縄県 = 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県 (8県)

- ④ 回答者の居住する都市規模が実社会の構成比と大幅に異なること。なお、都市規模のカテゴリーは、平成27年4月1日時点での各市区町村の人口に応じて、「指定都市及び特別区」、「人口20万人以上の市」、「人口20万人未満の市及び町村」に分類した。

(2) 調査方法

インターネットを利用したウェブアンケート調査

(3) 調査時期

平成27年12月

4. 回答者の既婚／未婚、子供の有無の状況

(1) 既婚／未婚

既婚	未婚	計
1,606	2,394	4,000

(2) 子供の有無

子供がいる	子供がいない	計
1,150	2,850	4,000

調査結果の概要

1. 結婚願望・子育て願望の現状と推移

(1) 結婚願望の現状と推移

① 結婚願望の現状

未婚者の現在の結婚願望は、「いい人が見つければ結婚したい」(30.2%)の割合が最も高く、次いで「いつか結婚したい」(27.8%)、「結婚したくない」(20.3%)となっている。

性別でみると、「早く結婚したい」と「いい人が見つければ結婚したい」の割合は女性の方が高く、「いつか結婚したい」と「結婚したくない」の割合は男性の方が高い。

年代別でみると、年代が上がるにつれて「早く結婚したい」の割合は低下し、「結婚したくない」の割合は上昇している。

年収別でみると、「結婚したくない」の割合は「100万円未満」(26.8%)で最も高く、以降「200万円以上300万円未満」までは年収が上がるにつれて「結婚したくない」の割合は低下しているが、「200万円以上300万円未満」より年収の高いカテゴリーでは「結婚したくない」の割合に差がみられなくなる。

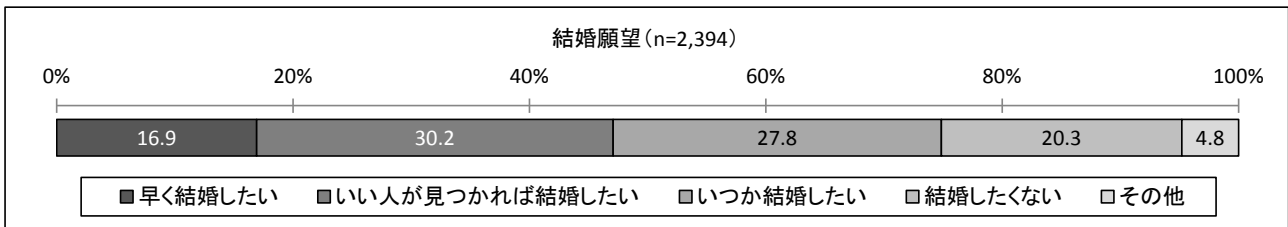


図 1-1-1 結婚願望の現状

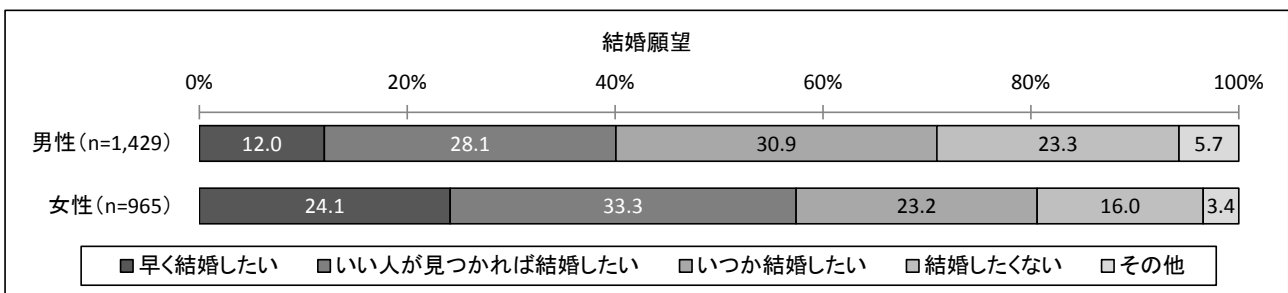


図 1-1-2 結婚願望の現状 (性別)

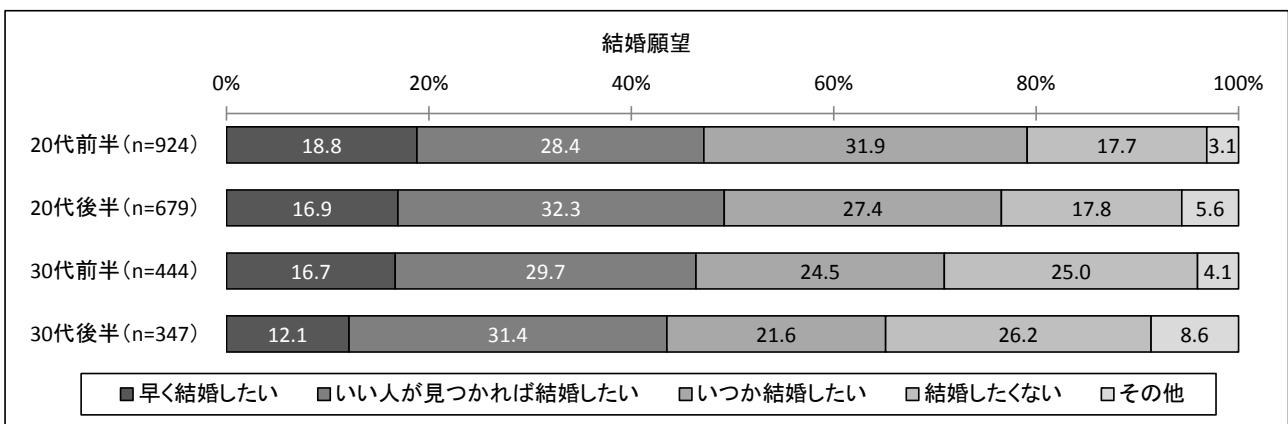


図 1-1-3 結婚願望の現状 (年代別)

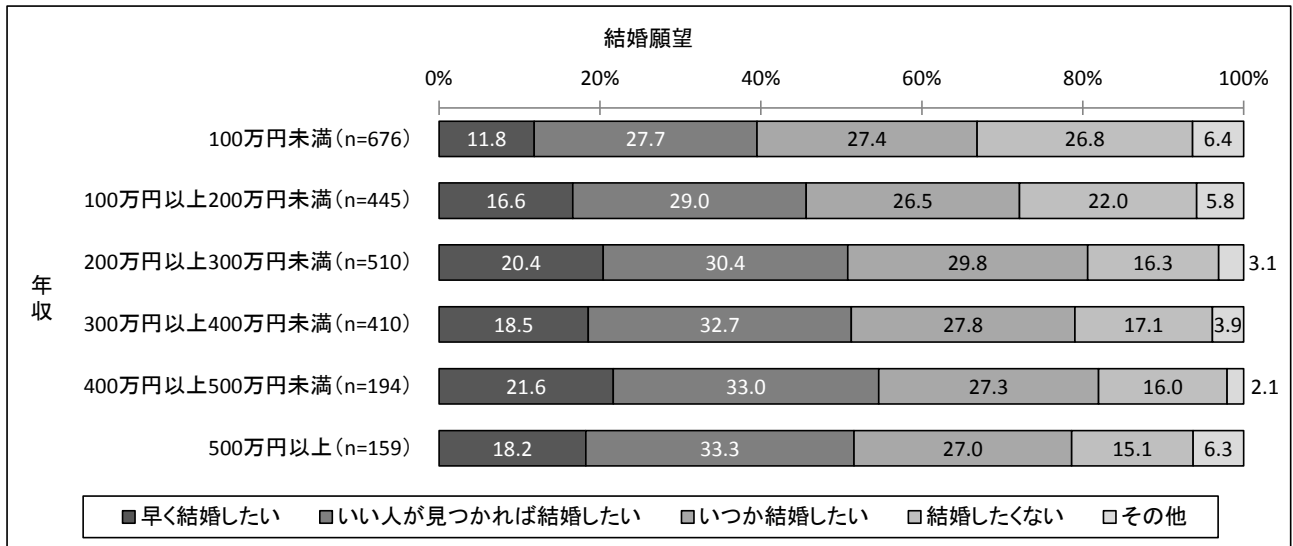


図 1-1-4 結婚願望の現状 (年収別)

② 結婚願望の推移

未婚者の結婚願望を平成 20 年度調査の結果と比較すると、本調査では「早く結婚したい」と「いい人が見つければ結婚したい」の割合が低下し、「いつか結婚したい」と「結婚したくない」の割合が上昇している。性別でみると、男性では「早く結婚したい」の割合が低下して「結婚したくない」の割合が上昇している一方、女性では「早く結婚したい」と「結婚したくない」の割合がともに上昇している。

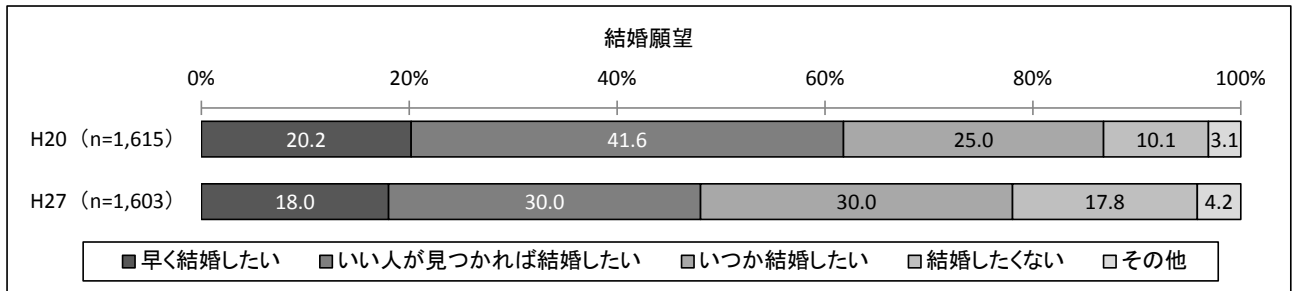


図 1-1-5 結婚願望の推移 (平成 20 年度調査との比較)

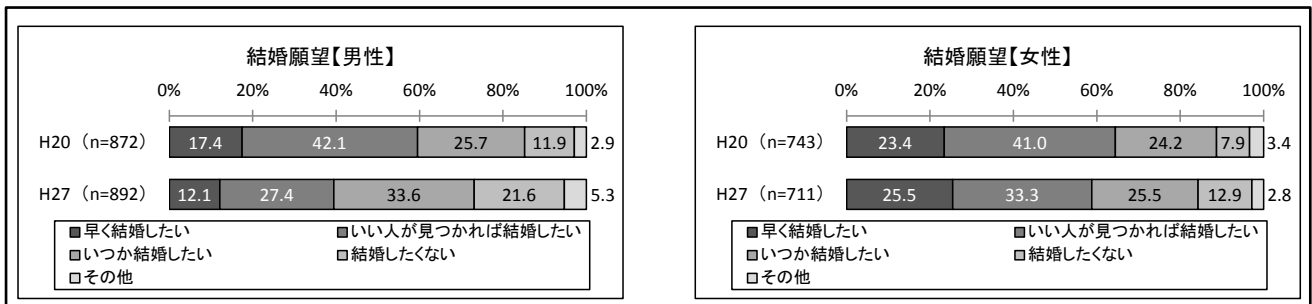


図 1-1-6 結婚願望の推移 (平成 20 年度調査との比較・性別)

(2) 子育て願望の現状と推移

① 子育て願望の現状

子供がいない人の現在の子育て願望は、「夫婦生活が安定したら欲しい」(27.0%)の割合が最も高く、次いで「子供は欲しくない」(24.8%)、「夫婦2人の生活を十分に楽しんだ後に欲しい」(19.5%)となっている。

性別で見ると、「結婚したらすぐにでも欲しい」と「夫婦2人の生活を十分に楽しんだ後に欲しい」の割合は女性の方が高く、「夫婦生活が安定したら欲しい」と「子供は欲しくない」の割合は男性の方が高い。

年代別で見ると、20代前半と20代後半では「子供は欲しくない」の割合が約2割なのに対し、30代前半と30代後半では「子供は欲しくない」の割合が約3割となっている。

年収別で見ると、「子供は欲しくない」の割合は「100万円未満」(30.0%)で最も高く、以降「200万円以上300万円未満」までは年収が上がるにつれて「子供は欲しくない」の割合は低下しているが、「200万円以上300万円未満」より年収の高いカテゴリーでは「子供は欲しくない」の割合に差がみられなくなる。

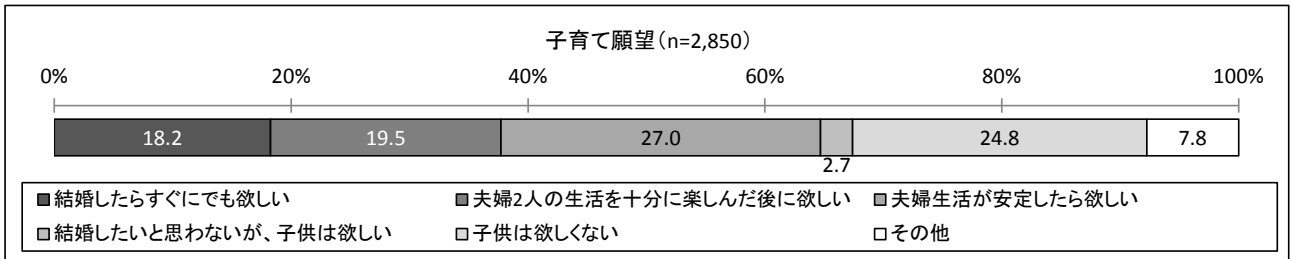


図1-2-1 子育て願望の現状

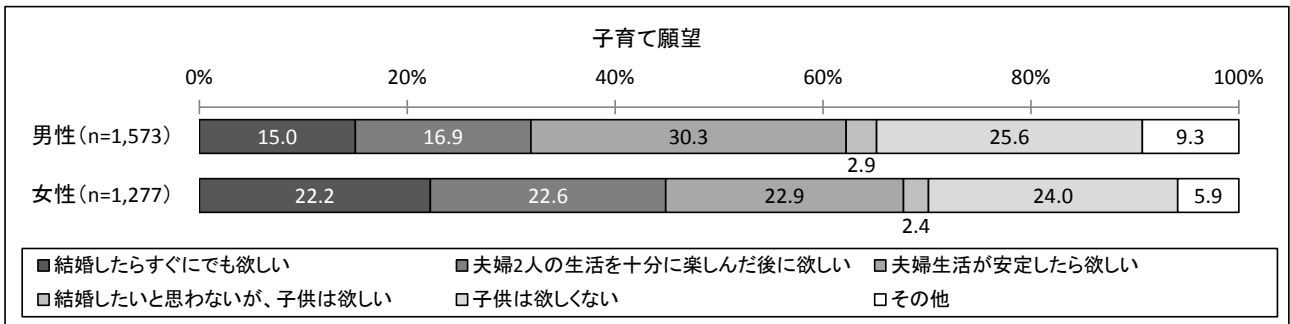


図1-2-2 子育て願望の現状 (性別)

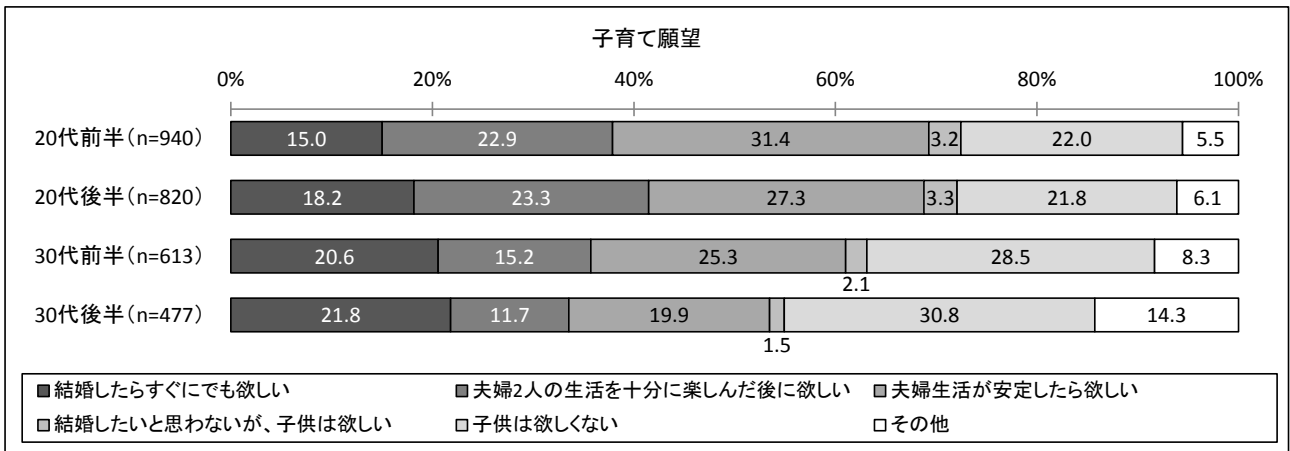


図1-2-3 子育て願望の現状 (年代別)

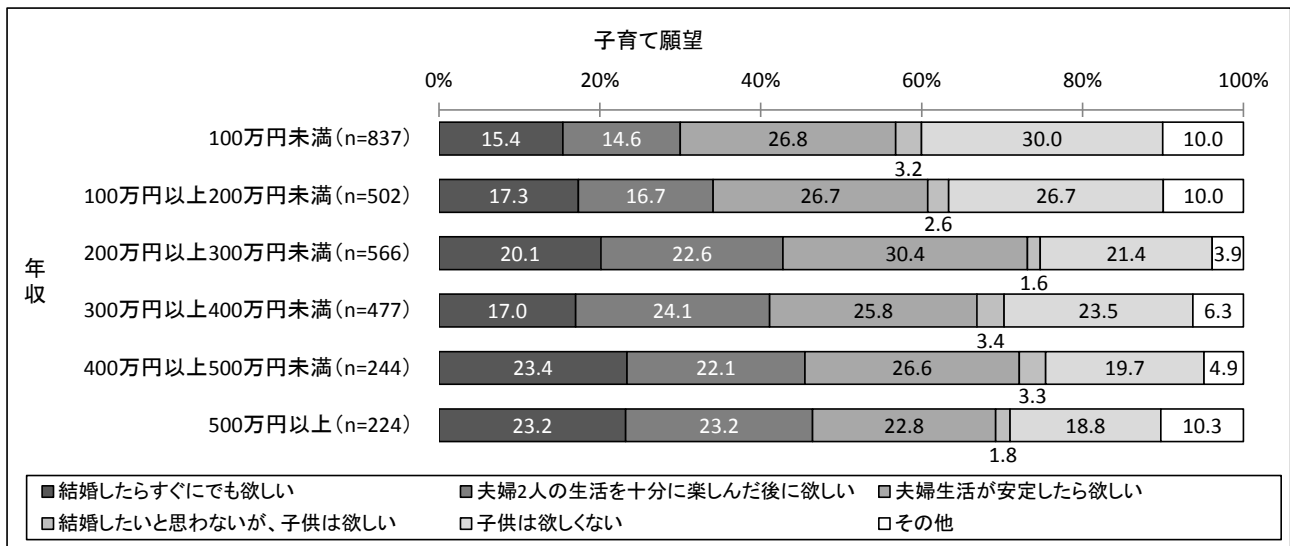


図 1-2-4 子育て願望の現状 (年収別)

② 子育て願望の推移

子供がいない人の子育て願望を平成 20 年度調査の結果と比較すると、本調査では「結婚したらすぐにでも欲しい」の割合には差がみられないが、「夫婦 2 人の生活を十分に楽しんだ後に欲しい」と「夫婦生活が安定したら欲しい」の割合が低下し、「子供は欲しくない」の割合が上昇している。

性別でみると、男性では「結婚したらすぐにでも欲しい」の割合が低下して「子供は欲しくない」の割合が上昇している一方、女性では「結婚したらすぐにでも欲しい」と「子供は欲しくない」の割合がともに上昇している。

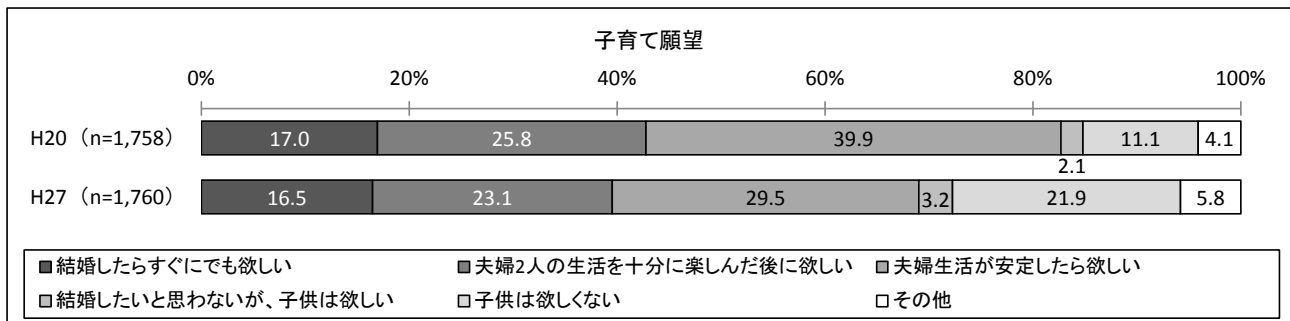


図 1-2-5 子育て願望の推移 (平成 20 年度調査との比較)

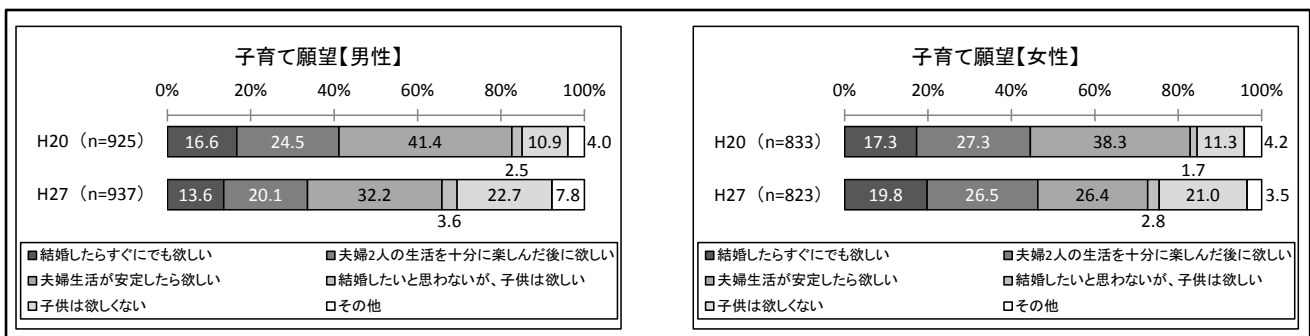


図 1-2-6 子育て願望の推移 (平成 20 年度調査との比較・性別)

2. 交際相手や異性の存在と結婚観の関係

(1) 交際の有無と結婚願望の関係

未婚者の結婚願望を交際の有無別でみると、現在交際相手がいる人（以下「交際中」という。）では「いつか結婚したい」（36.2%）の割合が最も高く、次いで「早く結婚したい」（32.8%）、「いい人が見つければ結婚したい」（21.8%）となっている。現在交際相手はいないが交際経験はある人（以下「交際経験あり」という。）では「いい人が見つければ結婚したい」（38.4%）の割合が最も高く、次いで「いつか結婚したい」（26.4%）、「結婚したくない」（19.6%）となっている。交際経験がない人（以下「交際経験なし」という。）では「結婚したくない」（34.2%）の割合が最も高く、次いで「いい人が見つければ結婚したい」（27.2%）、「いつか結婚したい」（22.2%）となっている。

交際の有無ごとの結婚願望を性別でみると、「交際中」と「交際経験あり」ではともに「早く結婚したい」の割合は女性の方が高いが、「交際経験なし」では「早く結婚したい」の割合に男女の差はみられない。一方、「交際経験あり」では「結婚したくない」の割合は男性の方が高いが、「交際中」と「交際経験なし」では「結婚したくない」の割合に男女の差はみられない。

また、交際の有無ごとの結婚願望を年収別でみると、「交際中」では「100万円以上200万円未満」以降年収が上がるにつれて「早く結婚したい」の割合は低下している。「交際経験あり」では「早く結婚したい」の割合に年収による傾向はみられない。「交際経験なし」では「100万円以上200万円未満」以降年収が上がるにつれて「早く結婚したい」の割合は上昇している。

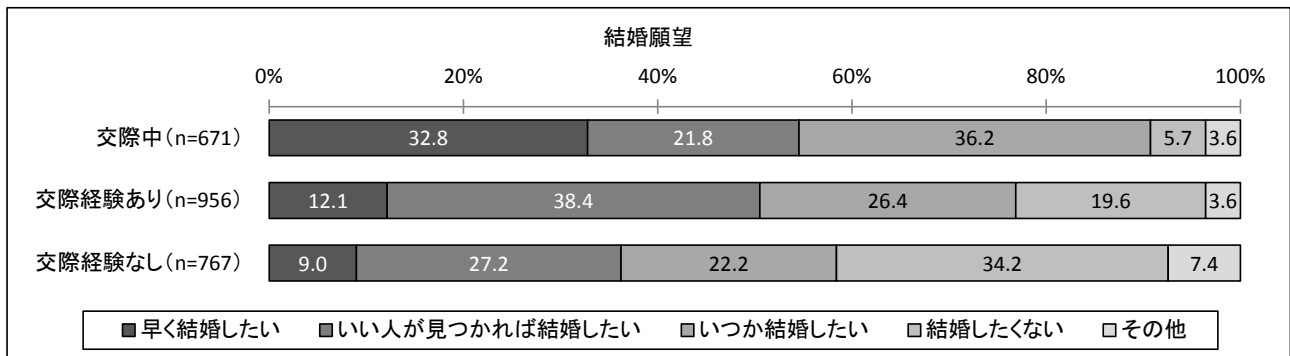


図 2-1-1 結婚願望の現状 (交際の有無別)

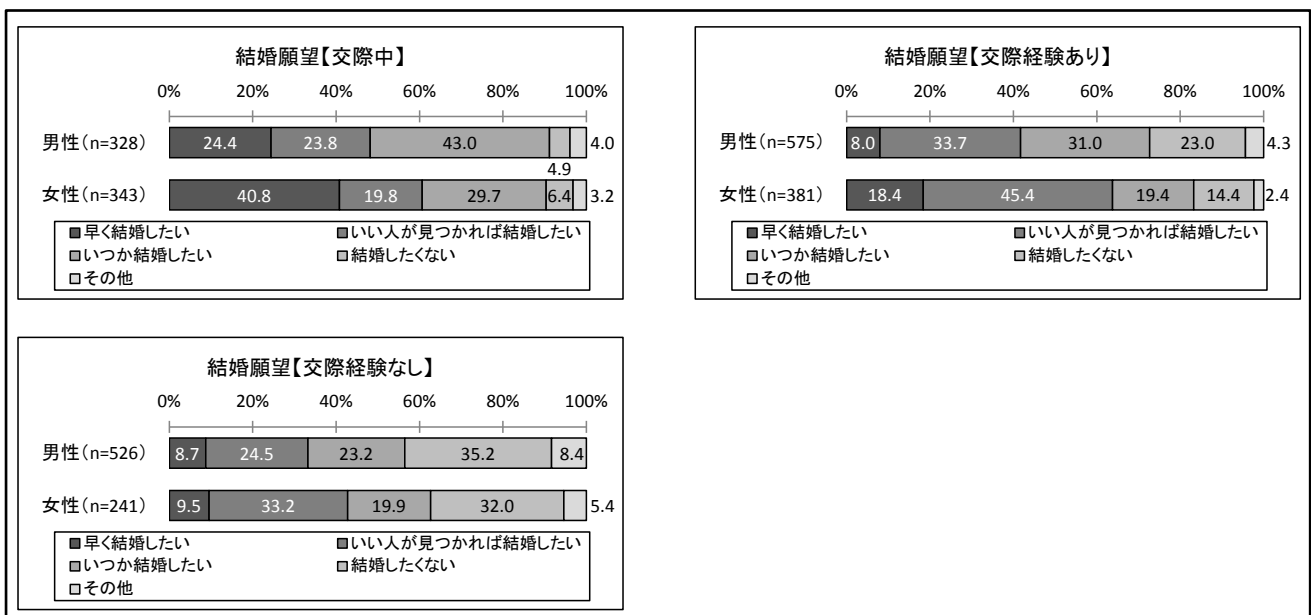


図 2-1-2 結婚願望の現状 (交際の有無別・性別)

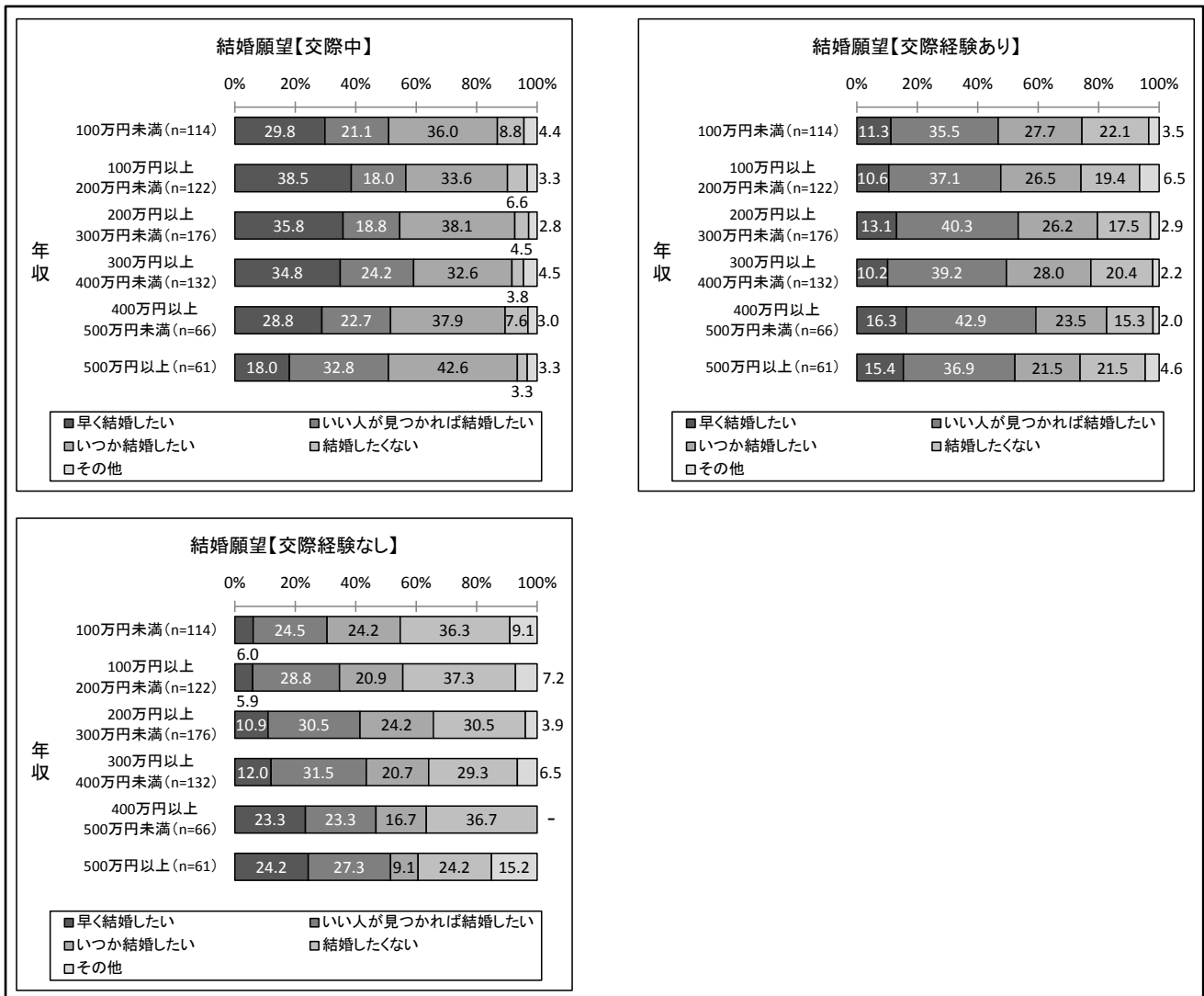


図 2 - 1 - 3 結婚願望の現状（交際の有無別・年収別）

(2) 結婚していない理由と結婚願望・子育て願望の関係

① 結婚していない理由

「交際中」の人が結婚していない理由について、「とても当てはまる」と「やや当てはまる」の割合の合計をみると、「経済的に難しい」(63.8%)が最も高く、次いで「一人が楽である」(50.4%)、「仕事が忙しい」(48.3%)となっている。

性別でみると、「経済的に難しい」の割合は女性の方が高く、「親など周囲の許しが得られない」は男女で差がみられないが、それら以外の理由については男性の方が割合は高い。

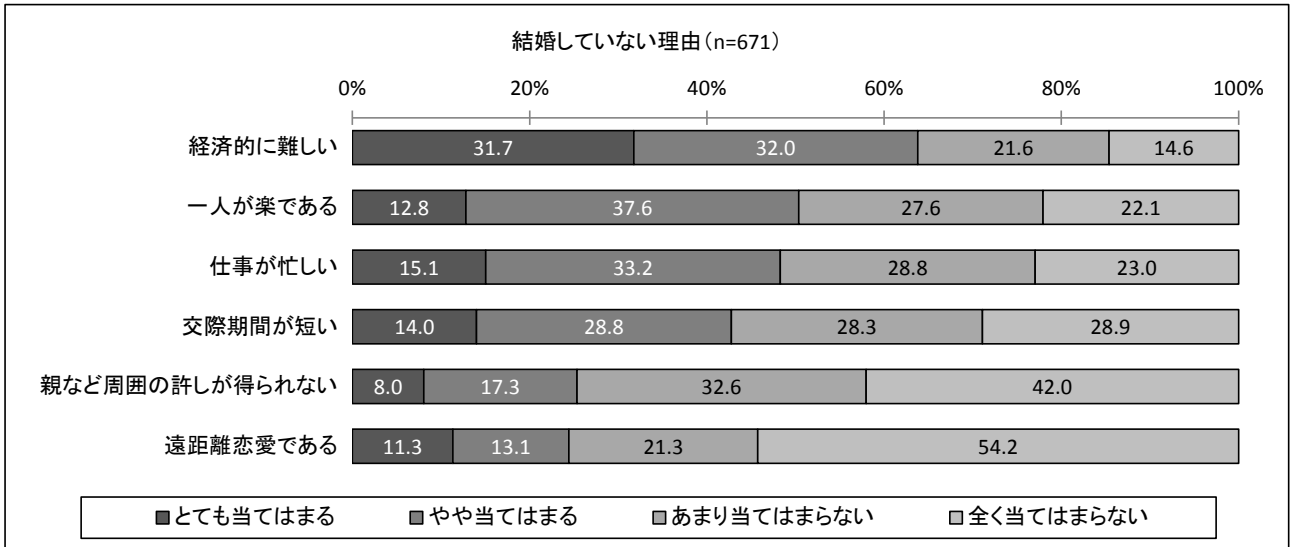


図2-2-1 結婚していない理由

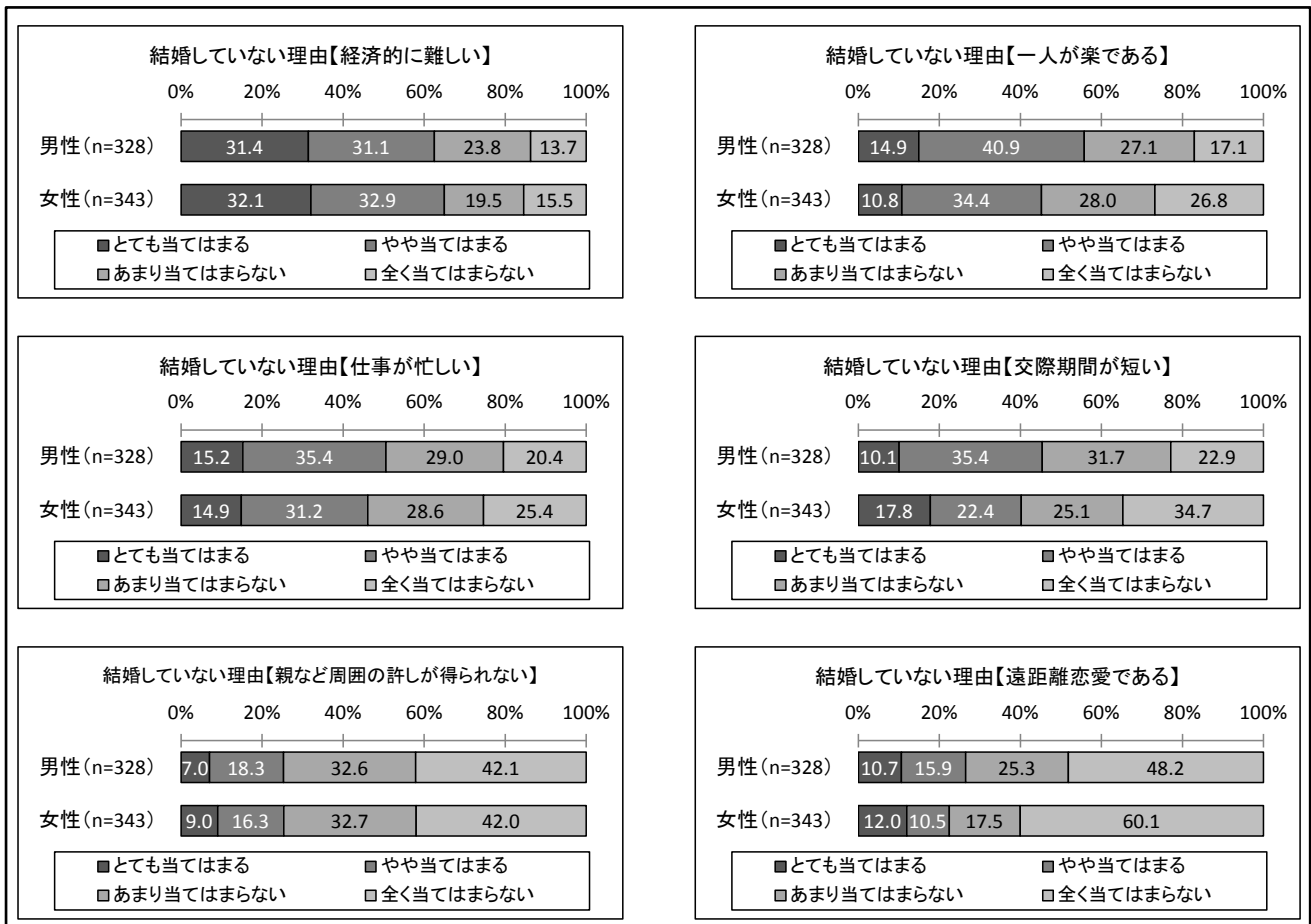


図2-2-2 結婚していない理由 (性別)

② 結婚していない理由と結婚願望の関係

結婚していない理由と結婚願望の関係をみると、「一人が楽である」に当てはまる人ほど「早く結婚したい」の割合は低下している。また、「一人が楽である」に「やや当てはまる」、「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」人ではそれぞれ「結婚したくない」割合は1割に満たないが、「一人が楽である」に「とても当てはまる」人では「結婚したくない」割合が2割を超えている。一方、「一人が楽である」以外の理由については、結婚願望との関係に傾向はみられない。

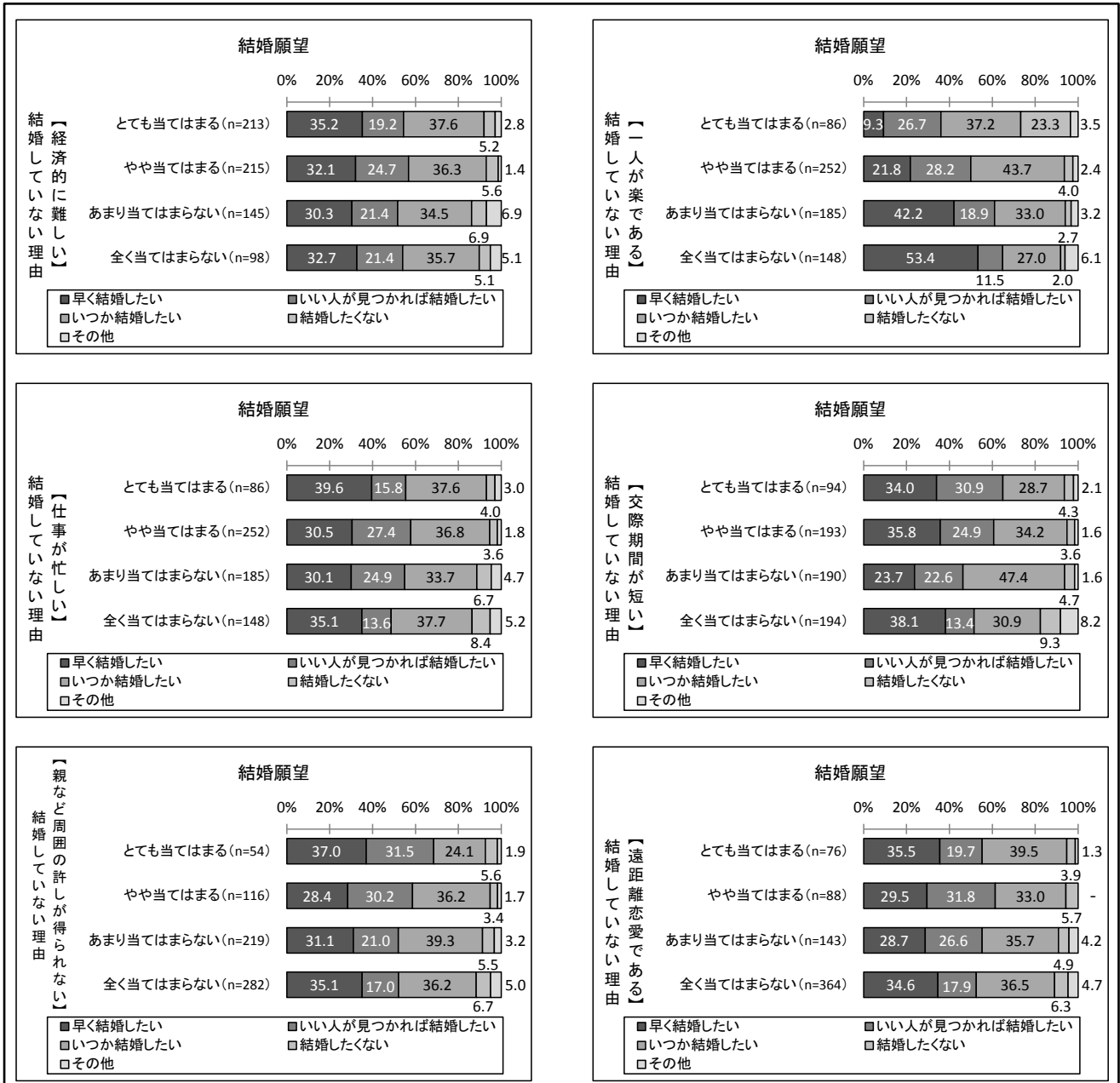


図2-2-3 結婚していない理由と結婚願望の関係

③ 年収と「経済的に難しい」の関係

年収と「経済的に難しい」の関係を見ると、「100万円未満」から「200万円以上300万円未満」までのカテゴリーでは「とても当てはまる」と「やや当てはまる」の割合の合計に差はみられないが、「200万円以上300万円未満」以降のカテゴリーでは年収が上がるにつれて「とても当てはまる」と「やや当てはまる」の割合の合計が低下している。

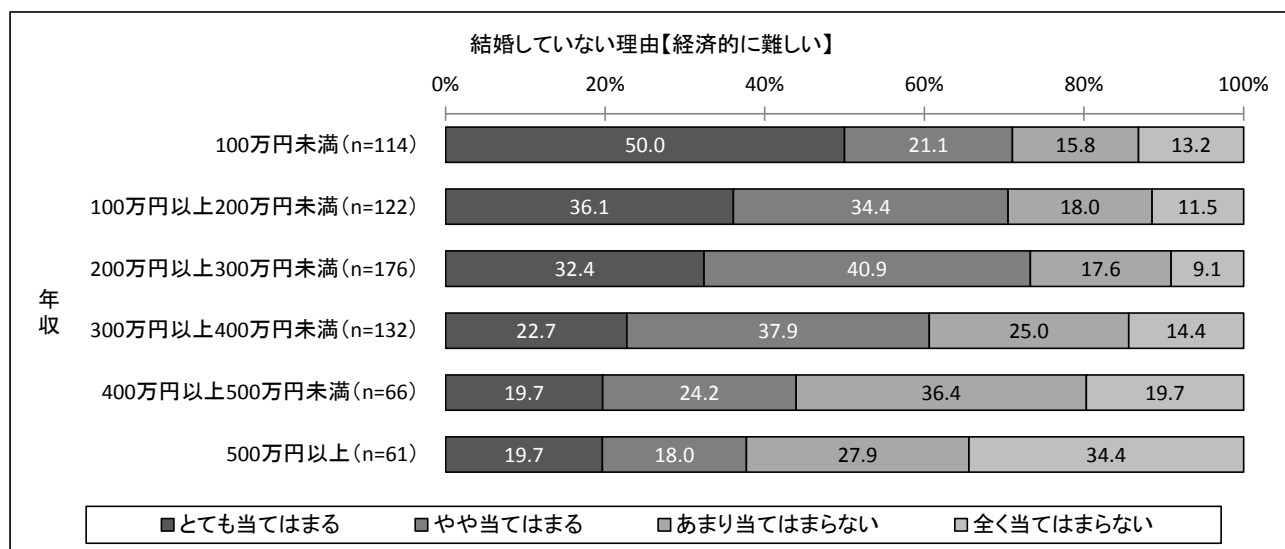


図2-2-4 年収と「経済的に難しい」の関係

④ 年代と「一人が楽である」の関係

年代と「一人が楽である」の関係を見ると、「20代前半」では「とても当てはまる」と「やや当てはまる」の割合の合計は約4割だが、「20代後半」以降のカテゴリーではいずれも5割台後半から約6割となっている。

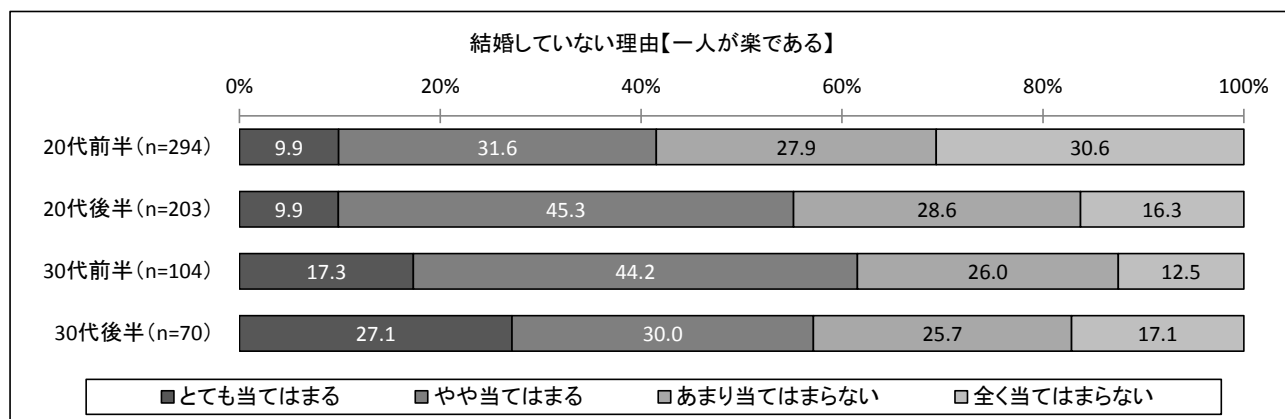


図2-2-5 年代と「一人が楽である」の関係

⑤ 年収と「一人が楽である」の関係

年収と「一人が楽である」の関係をみると、「100万円未満」から「300万円以上400万円未満」までのカテゴリーでは「とても当てはまる」と「やや当てはまる」の割合の合計はいずれも4割台から約5割だが、「400万円以上500万円未満」と「500万円以上」ではともに6割を超えている。

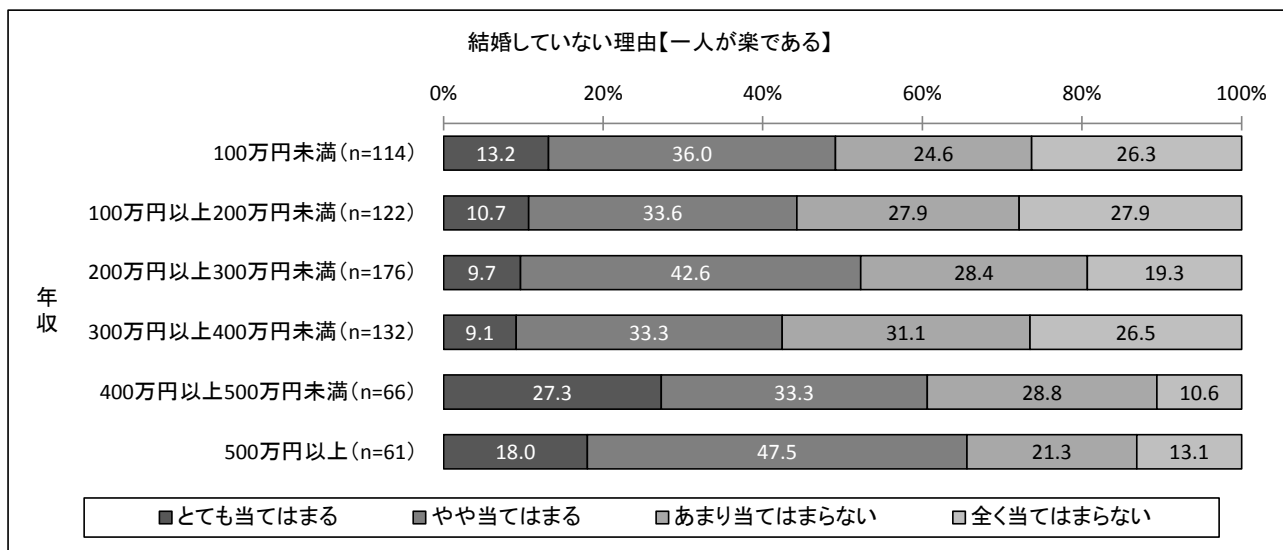


図2-2-6 年収と「一人が楽である」の関係

⑥ 「一人が楽である」と子育て願望の関係

「一人が楽である」と子育て願望の関係をみると、「一人が楽である」に当てはまる人ほど「結婚したらすぐにでも欲しい」割合は低下している。また、「一人が楽である」に「あまり当てはまらない」と「全く当てはまらない」人では「子供は欲しくない」割合はともに1割に満たないが、「やや当てはまる」人では約2割で、「とても当てはまる」人では3割を超えている。

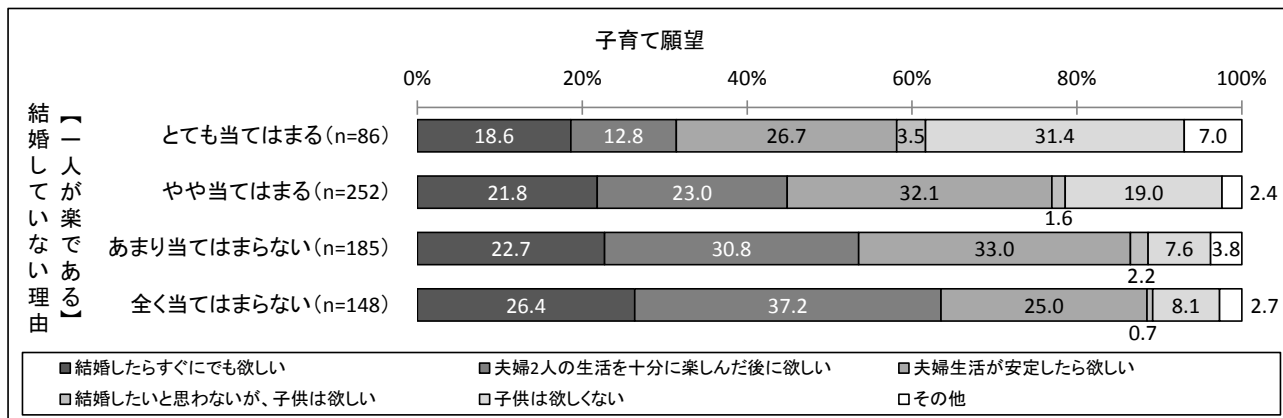


図2-2-7 「一人が楽である」と子育て願望の関係

(3) 現在の「異性との関係」と結婚願望の関係

① 現在の「異性との関係」

現在の「異性との関係」について、「とても当てはまる」と「やや当てはまる」の割合の合計をみると、「異性にも自分の考えをはっきり伝えることができる」(59.7%)が最も高く、次いで「同性と異性では、話す内容を分ける」(57.6%)、「どんな異性ともうまく話ができる」(57.2%)となっている。

既婚/未婚別でみると、「異性関係は面倒なものだと思う」以外の項目については「とても当てはまる」と「やや当てはまる」の割合の合計は既婚者の方が高くなっている。

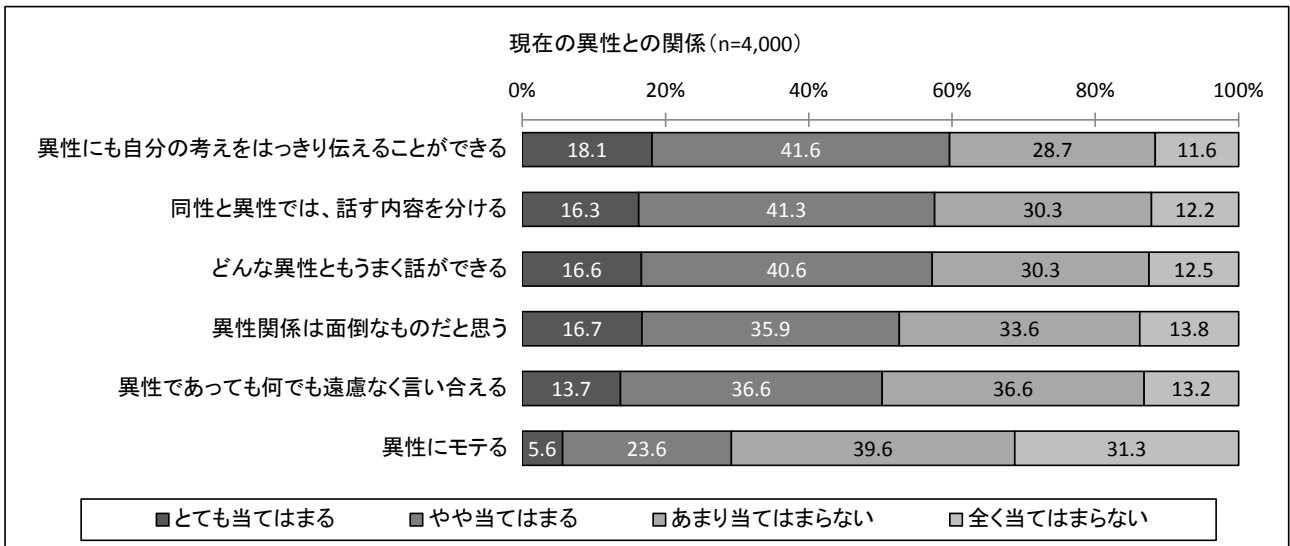


図2-3-1 現在の「異性との関係」

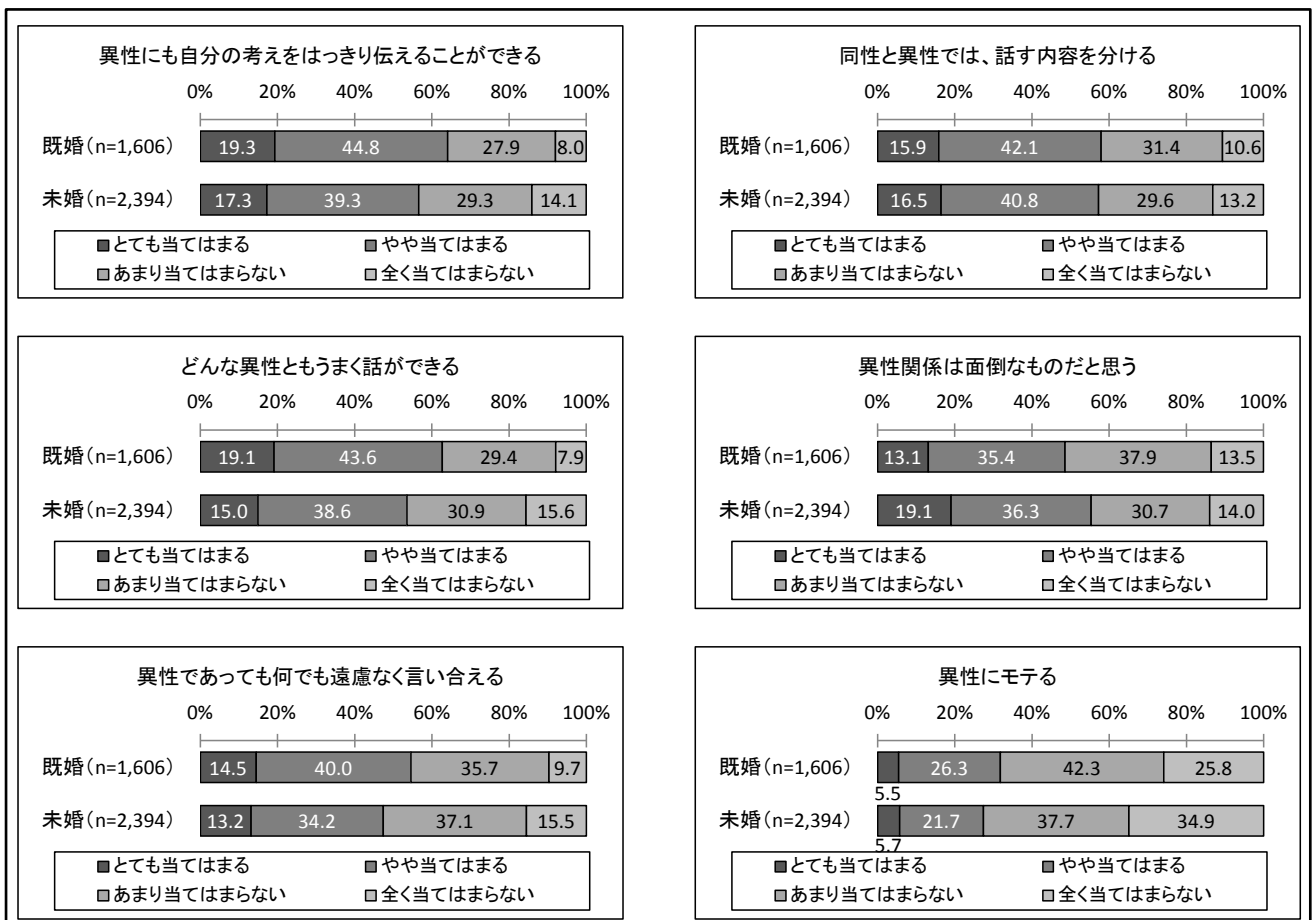


図2-3-2 現在の「異性との関係」(既婚/未婚別)

② 現在の「異性との関係」と結婚願望の関係

未婚者について、現在の「異性との関係」と結婚願望の関係をみると、「異性関係は面倒なものだと思う」以外の項目については、それぞれ当てはまる人ほど「早く結婚したい」割合が上昇している一方、「全く当てはまらない」人では「結婚したくない」割合がいずれも3割を超えている。また、「異性関係は面倒なものだと思う」については、当てはまる人ほど「早く結婚したい」割合が低下しており、「とても当てはまる」人の「結婚したくない」割合は3割を超えている。

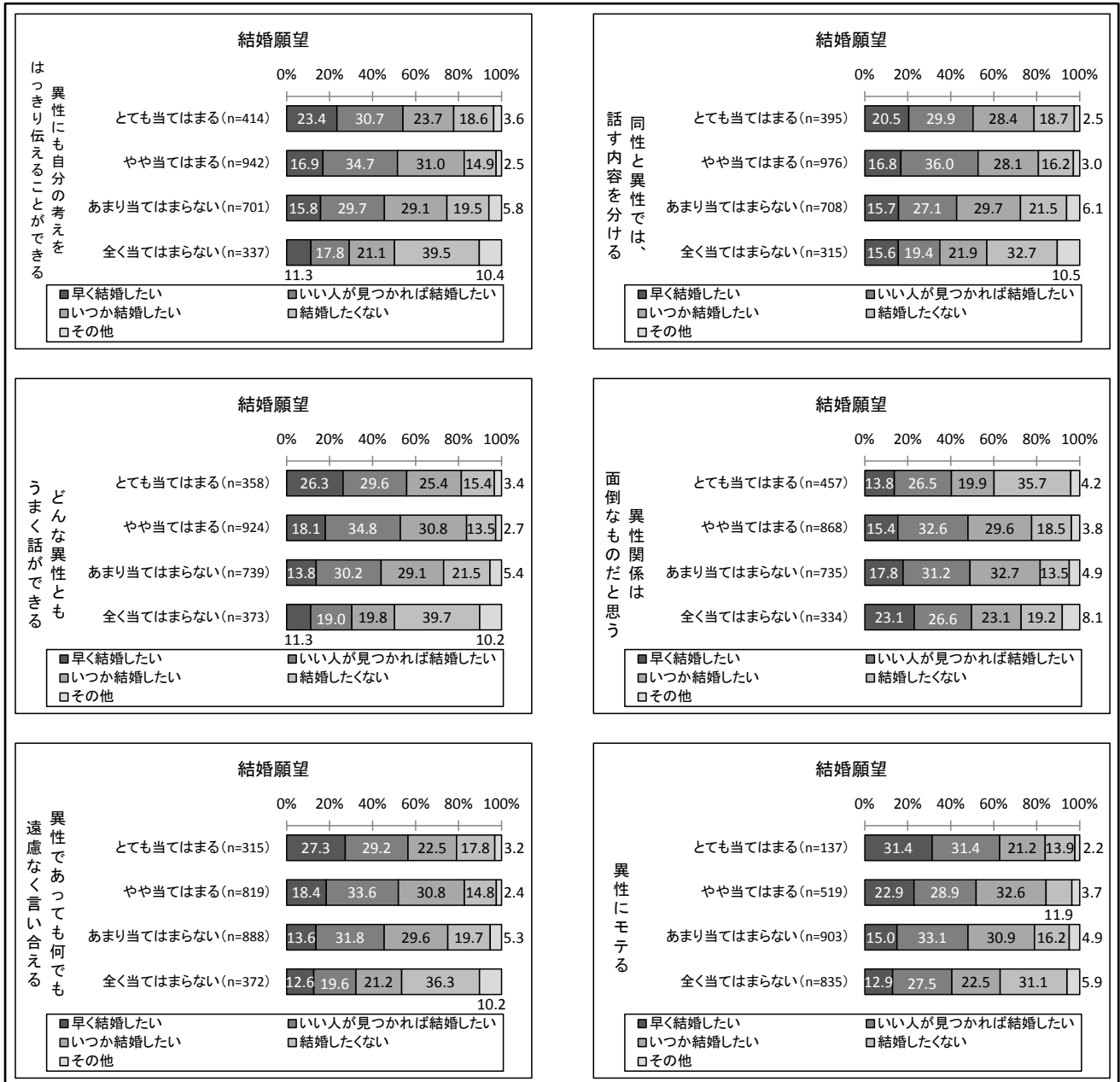


図2-3-3 現在の「異性との関係」と結婚願望の関係

3. 既婚／未婚・子供の有無と子育て観の関係

(1) 既婚／未婚と子育て願望の関係

子供がいない人の子育て願望を既婚／未婚別でみると、「結婚したらすぐにでも欲しい」と「夫婦2人の生活を十分に楽しんだ後に欲しい」の割合は既婚者の方が高く、「夫婦生活が安定したら欲しい」と「子供は欲しくない」の割合は未婚者の方が高い。

既婚／未婚それぞれの子育て願望を性別でみると、既婚者・未婚者ともに「結婚したらすぐにでも欲しい」の割合は女性の方が高いが、「子供は欲しくない」の割合に差はみられない。

また、既婚／未婚それぞれの子育て願望を年収別でみると、既婚者では「100万円未満」から「400万円以上500万円未満」までは年収が上がるにつれて「子供は欲しくない」の割合が低下している。一方、未婚者では「100万円未満」のみ「子供は欲しくない」の割合が3割を超えている。

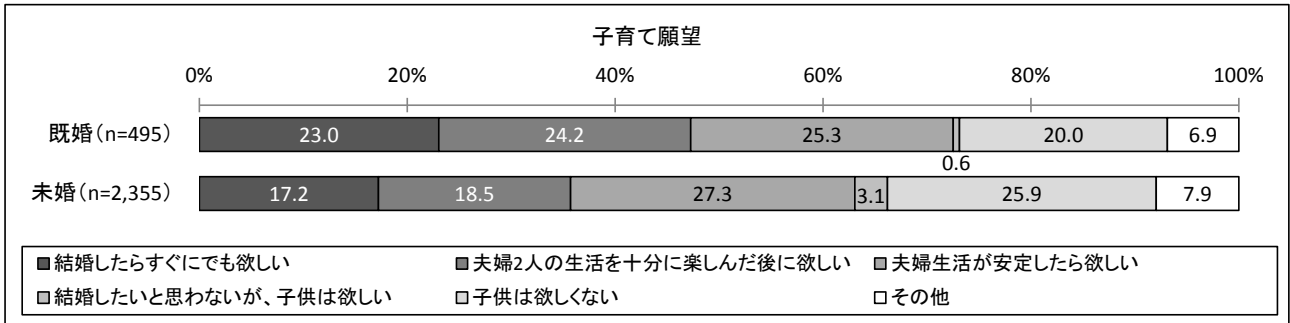


図3-1-1 子育て願望 (既婚／未婚別)

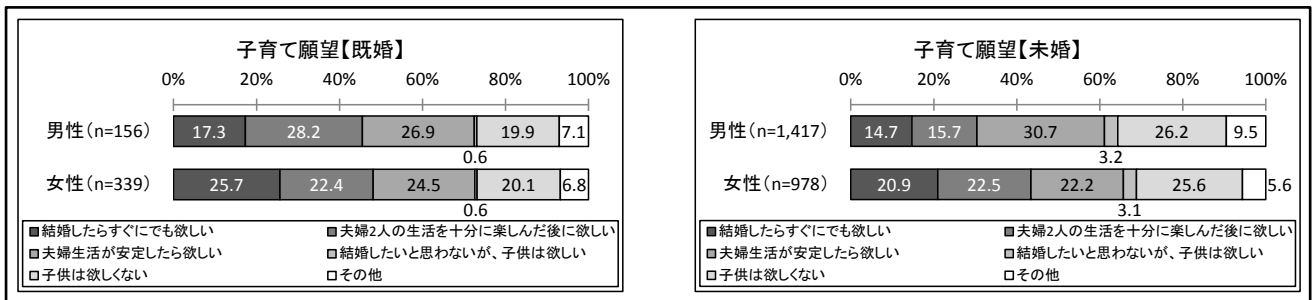


図3-1-2 子育て願望 (既婚／未婚別・性別)

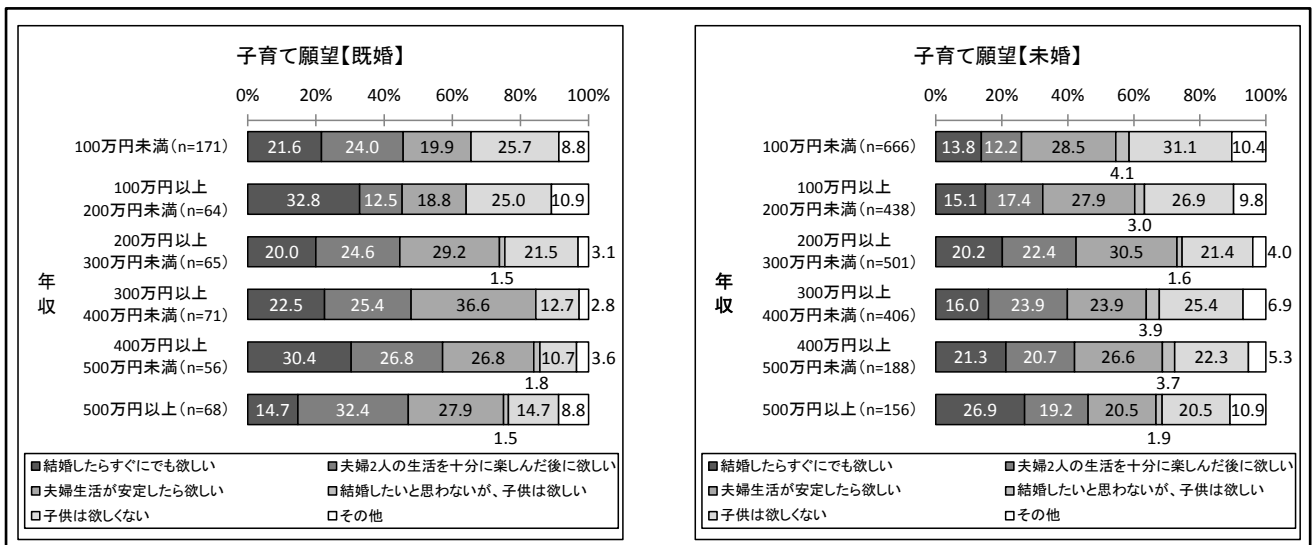


図3-1-3 子育て願望 (既婚／未婚別・年収別)

(2) 子供の存在についての考え方

① 子供の存在についての考え

子供の存在についての考えの「とても当てはまる」と「やや当てはまる」の割合の合計をみると、「家族の結びつきを強める」(85.3%)が最も高く、次いで「仕事や人生の励みになる」(81.8%)、「親を成長させてくれる」(81.7%)となっている。

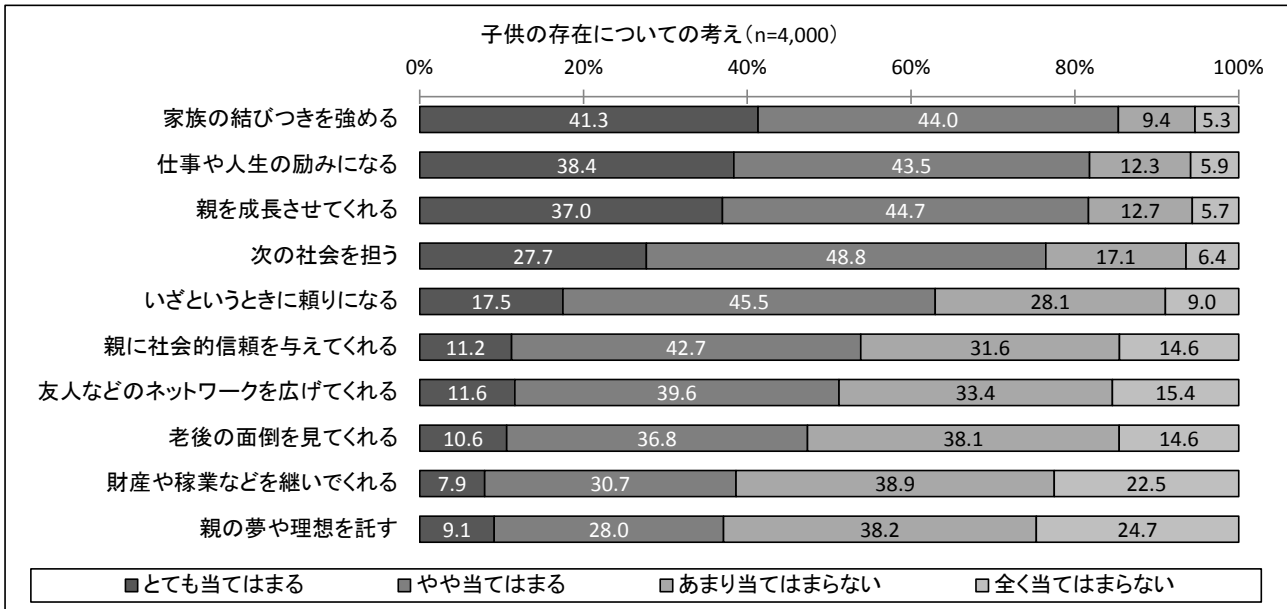


図3-2-1 子供の存在についての考え

② 子供の存在についての考えに関する指標

子供の存在についての考えの回答のうち、「とても当てはまる」を4点、「やや当てはまる」を3点、「あまり当てはまらない」を2点、「全く当てはまらない」を1点として、10項目を対象とした因子分析（最尤法・プロマックス回転）を行った。

その結果、固有値1以上の因子が2つ抽出された。各因子を代表すると考えられる項目から、第1因子を家族の「継続」を重視する家族観、第2因子を「生きがい」を重視する家族観と名付けた。なお、「いざというときに頼りになる」はどちらの因子においても因子負荷量が0.5に満たなかったため、除外した。

表3-2-1 子供の存在についての考えに関する因子構造

	第1因子	第2因子
	家族の継続	生きがい
財産や稼業などを継いでくれる	.877	-.142
親の夢や理想を託す	.860	-.136
老後の面倒を見てくれる	.675	.026
親に社会的信頼を与えてくれる	.640	.167
友人などのネットワークを広げてくれる	.610	.163
いざというときに頼りになる	.428	.396
仕事や人生の励みになる	-.059	.882
親を成長させてくれる	-.060	.855
家族の結びつきを強める	-.041	.847
次の社会を担う	.105	.650
固有値	4.931	1.769

また、2つの因子ごとに回答の合計得点を計算し、それぞれの家族観が「強い」群、「ふつう」の群、「弱い」群の3つに分類した（分類方法の詳細は42ページを参照）。

③ 性別・既婚/未婚・子供の有無と子供の存在についての考えの関係

性別と子供の存在についての考えの関係をみると、家族の「継続」を重視する家族観については、「強い」群の割合は男性の方が約5ポイント高くなっている。一方、「生きがい」を重視する家族観については、「強い」群の割合は女性の方が約10ポイント高くなっている。

また、性別及び既婚/未婚別でみると、家族の「継続」を重視する家族観については、男女ともに既婚者と未婚者で「強い」群の割合に差はみられないが、「生きがい」を重視する家族観については、「強い」群の割合が男性では約15ポイント、女性では約10ポイント、それぞれ既婚者の方が高くなっている。

さらに、性別及び子供の有無別でみると、家族の「継続」を重視する家族観については、男女ともに子供の有無で「強い」群の割合に差はみられないが、「生きがい」を重視する家族観については、「強い」群の割合が男女ともに約15ポイント、子供がいる人の方が高くなっている。

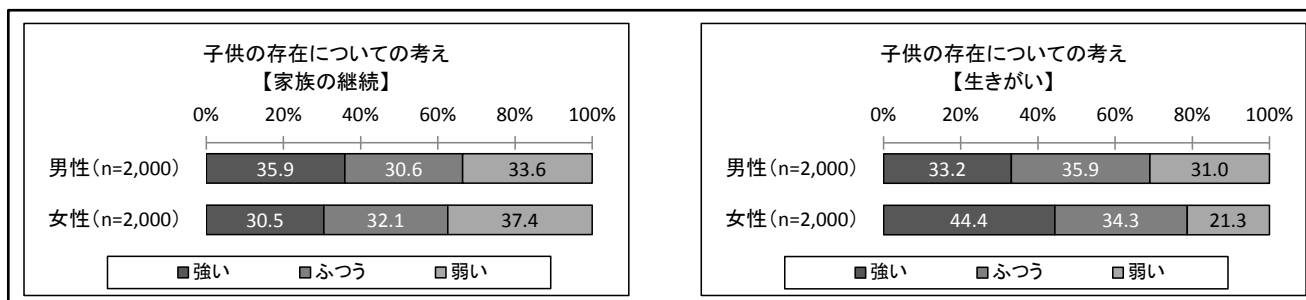


図3-2-2 性別と子供の存在についての考えの関係

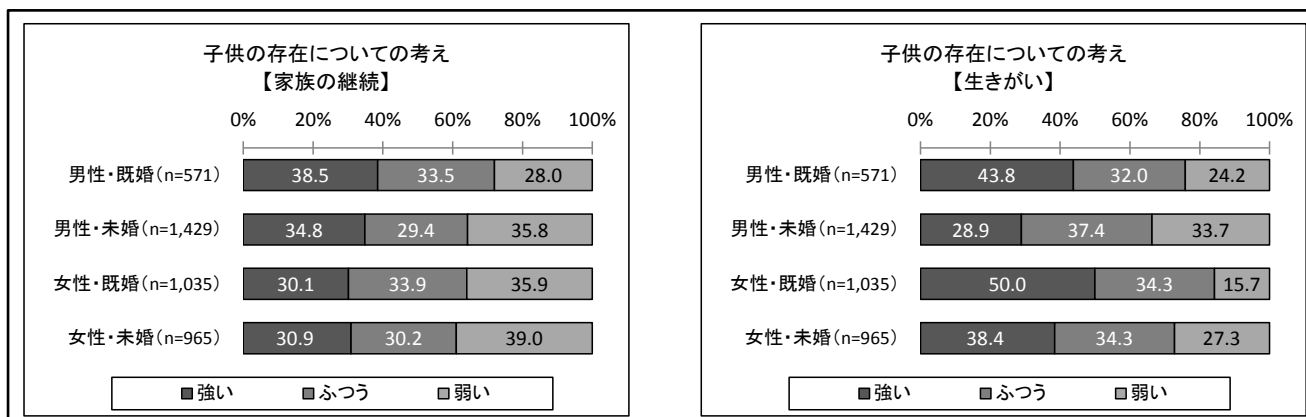


図3-2-3 性別・既婚/未婚と子供の存在についての考えの関係

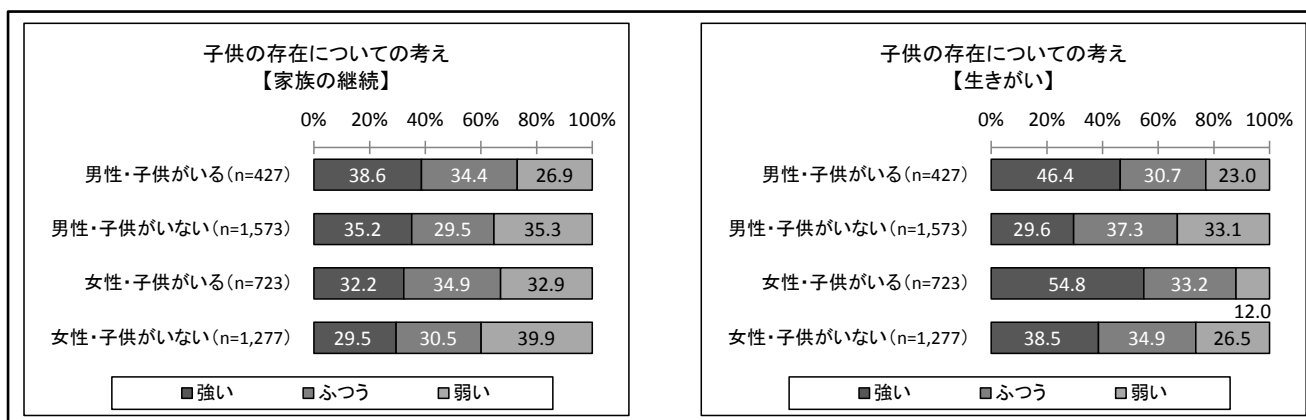


図3-2-4 性別・子供の有無と子供の存在についての考えの関係

④ 子供の存在についての考えと結婚願望の関係

未婚者の、子供の存在についての考えと結婚願望の関係をみると、家族の「継続」を重視する家族観、「生きがい」を重視する家族観ともに「強い」群、「ふつう」の群、「弱い」群の順に「結婚したい」割合は高くなっているが、家族の「継続」を重視する家族観が「強い」群と「弱い」群の「結婚したい」割合の差は約25ポイントなのに対し、「生きがい」を重視する家族観が「強い」群と「弱い」群の「結婚したい」割合の差は約35ポイントとなっている。

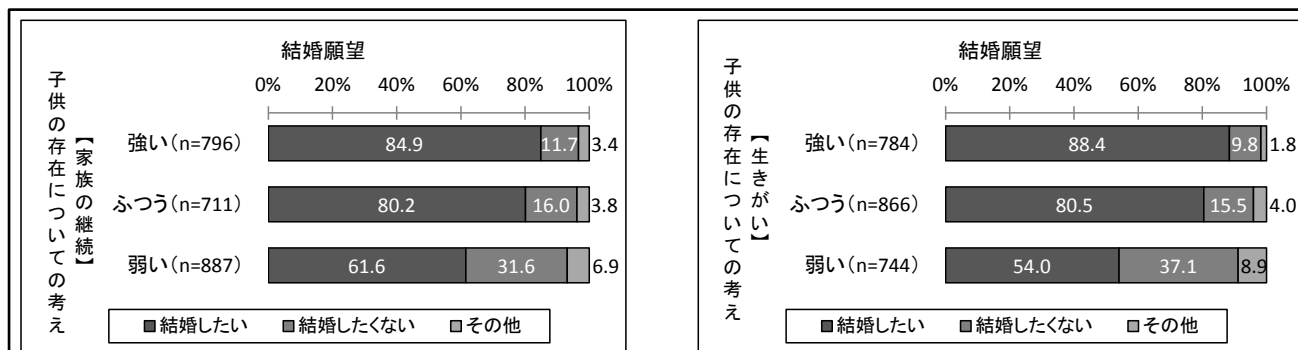


図3-2-5 子供の存在についての考えと結婚願望の関係

注) 結婚願望については、「早く結婚したい」、「いい人が見つければ結婚したい」、「いつか結婚したい」の3つをまとめて「結婚したい」として集計している。

⑤ 子供の存在についての考えと子育て願望の関係

子供がいない人の、子供の存在についての考えと子育て願望の関係をみると、家族の「継続」を重視する家族観、「生きがい」を重視する家族観ともに「強い」群、「ふつう」の群、「弱い」群の順に「子供は欲しい」割合は高くなっているが、家族の「継続」を重視する家族観が「強い」群と「弱い」群の「子供は欲しい」割合の差は約25ポイントなのに対し、「生きがい」を重視する家族観が「強い」群と「弱い」群の「子供が欲しい」割合の差は約50ポイントとなっている。

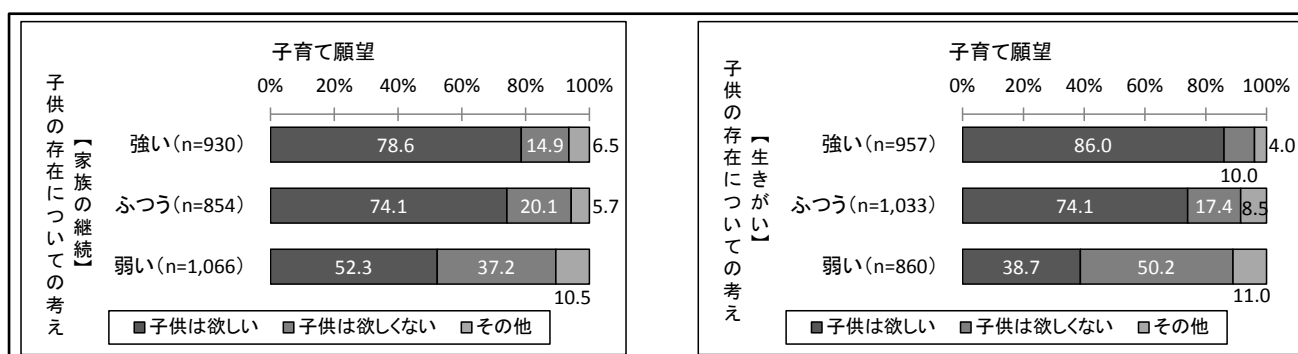


図3-2-6 子供の存在についての考えと子育て願望の関係

注) 子育て願望については、「結婚したらすぐにでも欲しい」、「夫婦2人の生活を十分に楽しんだ後に欲しい」、「夫婦生活が安定したら欲しい」、「結婚したいと思わないが、子供は欲しい」の4つをまとめて「子供は欲しい」として集計している。

⑥ 「一人が楽である」と子供の存在についての考えの関係

結婚していない理由のうち「一人が楽である」と子供の存在についての考えの関係をみると、家族の「継続」を重視する家族観も「生きがい」を重視する家族観も、「一人が楽である」に当てはまるかどうかと強い関係がみられない。

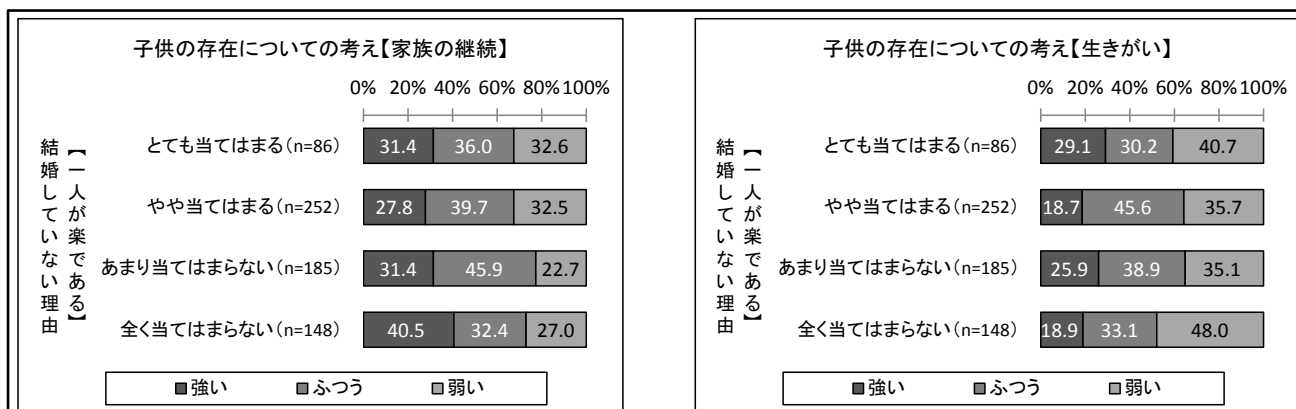


図3-2-7 「一人が楽である」と子供の存在についての考えの関係

4. 小学生の時までの体験と結婚観・子育て観の関係

(1) 小学生の時までの体験

本調査では、小学生の時までの体験を、「小学校に通う前」、「小学校低学年」、「小学校高学年」の3つの時期に分け、それぞれ「自然体験」、「動植物とのかかわり」、「友だちとの遊び」、「地域活動」、「家族行事」、「家事手伝い」の6種類各3項目、計18項目について「何度もある」、「少しある」、「ほとんどない」の3件法で質問した。

表4-1-1 体験の種類と項目

自然体験	海や川で貝を採ったり、魚を釣ったりしたこと	動植物とのかかわり	花を育てたこと
	太陽が昇るところや沈むところを見たこと		チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと
	夜空いっぱいにかがやく星をゆっくり見たこと		野鳥を見たり、なく声を聞いたこと
友だちとの遊び	かくれんぼや缶けりをしたこと	地域活動	近所の小さい子どもと遊んであげたこと
	ままごとやヒーローごっこをしたこと		バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずったこと
	弱いものいじめやケンカを注意したり、やめさせたこと		地域清掃に参加したこと
家族行事	家族の誕生日を祝ったこと	家事手伝い	食器をそろえたり、片付けたりしたこと
	家族の病気の看病をしたこと		ゴミ袋を出したり、捨てたこと
	家族で家の大掃除をしたこと		家の中の掃除や整頓を手伝ったこと

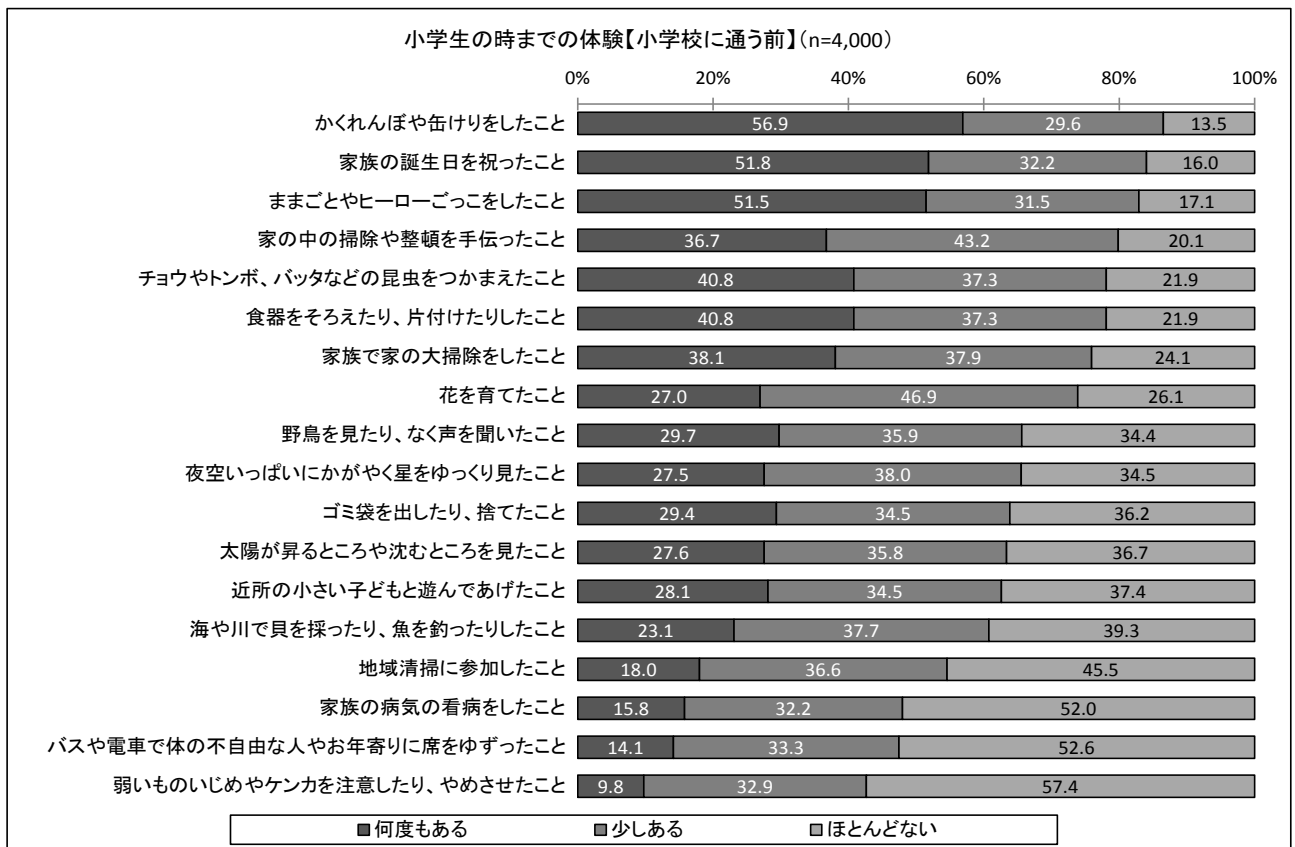


図4-1-1 小学校に通う前の体験

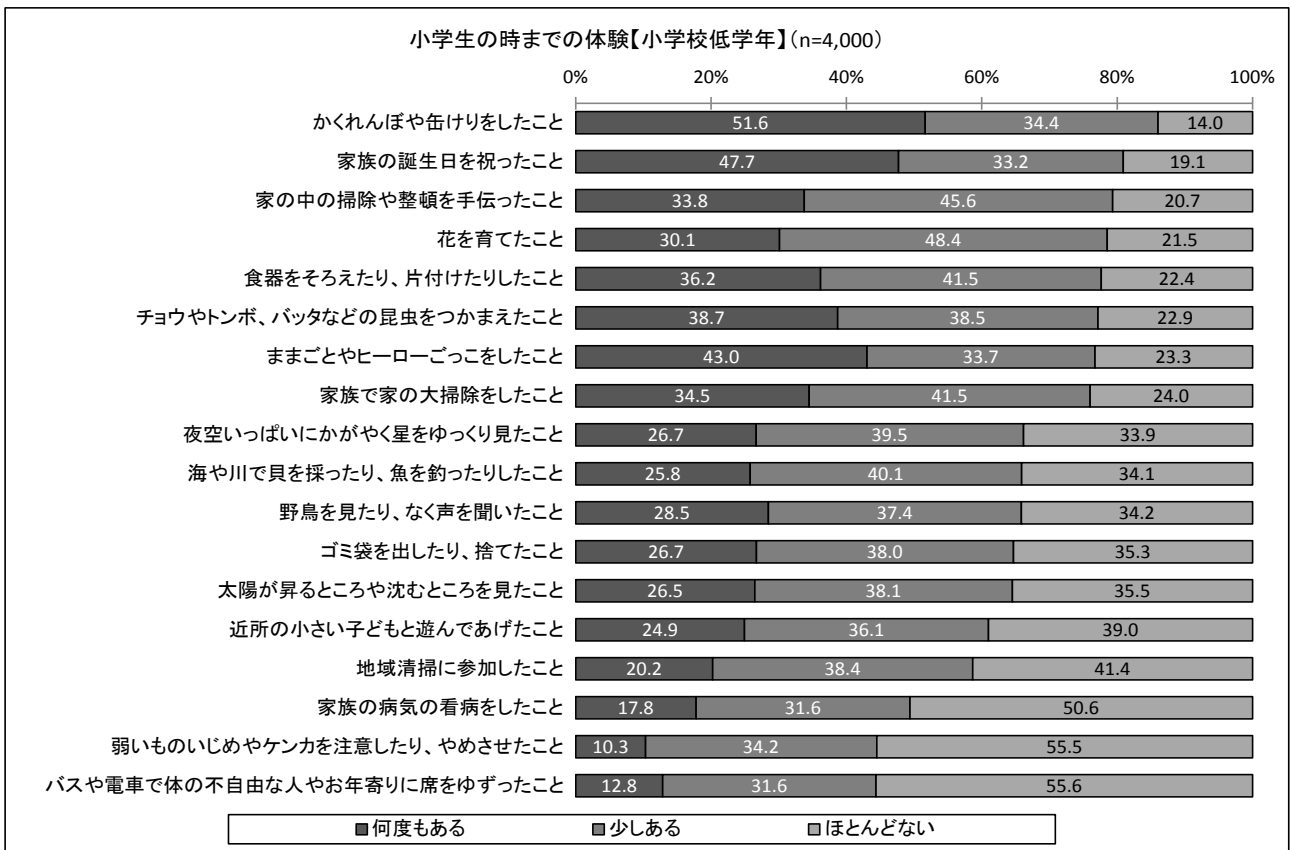


図 4-1-2 小学校低学年の体験

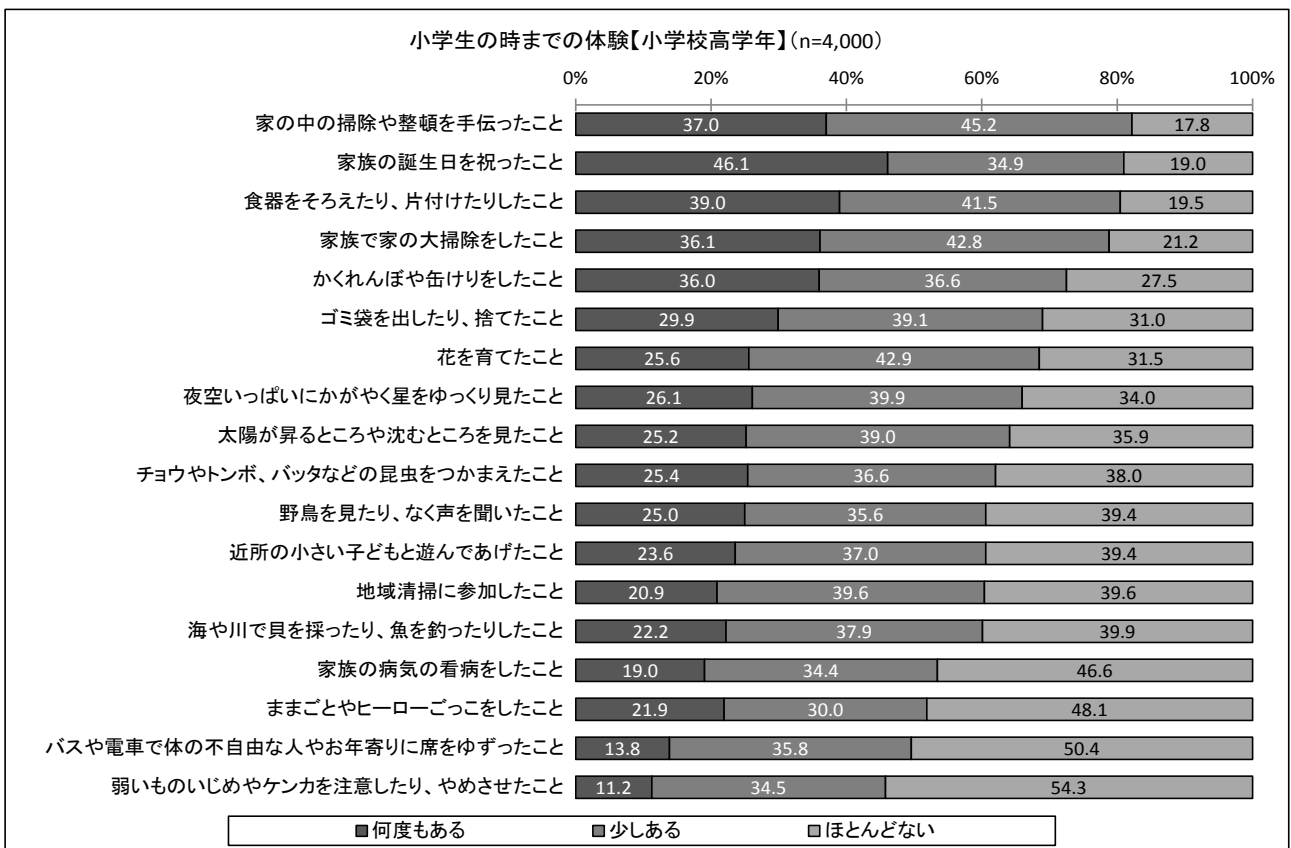


図 4-1-3 小学校高学年の体験

ここでは、「何でもある」を3点、「少しある」を2点、「ほとんどない」を1点として、全時期全種類の体験、時期別の体験、種類別の体験についてそれぞれ回答の合計得点を計算し、体験が「多い」群、「ふつう」の群、「少ない」群の3つに分類した（分類方法の詳細は42ページを参照）。

(2) 小学生の時までの体験と結婚経験の関係

注) (2) では、結婚経験について、現在「結婚している」人と過去に「結婚していたことがある」人をまとめて「結婚している」として集計している。

① 小学生の時までの体験全体と結婚経験の関係

小学生の時までの体験全体と結婚経験の関係をみると、体験が多くなるにつれて「結婚している」割合は上昇しており、体験が「多い」群では約5割、体験が「少ない」群では3割台となっている。

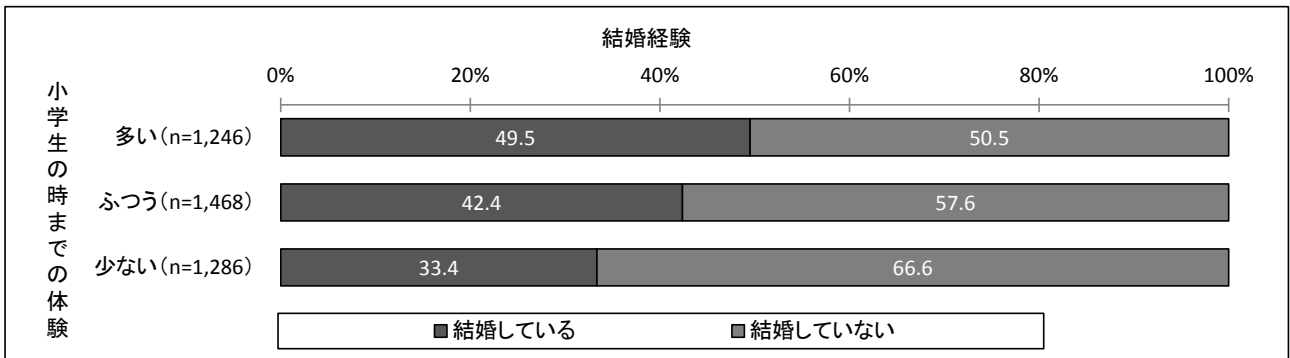


図4-2-1 小学生の時までの体験全体と結婚経験の関係

② 小学生の時までの時期別の体験と結婚経験の関係

小学生の時までの時期別の体験と結婚経験の関係をみると、「小学校に通う前」、「小学校低学年」、「小学校高学年」のどの時期についても体験が多くなるにつれて「結婚している」割合は上昇しており、体験が「多い」群ではいずれも約5割、体験が「少ない」群ではいずれも3割台となっている。

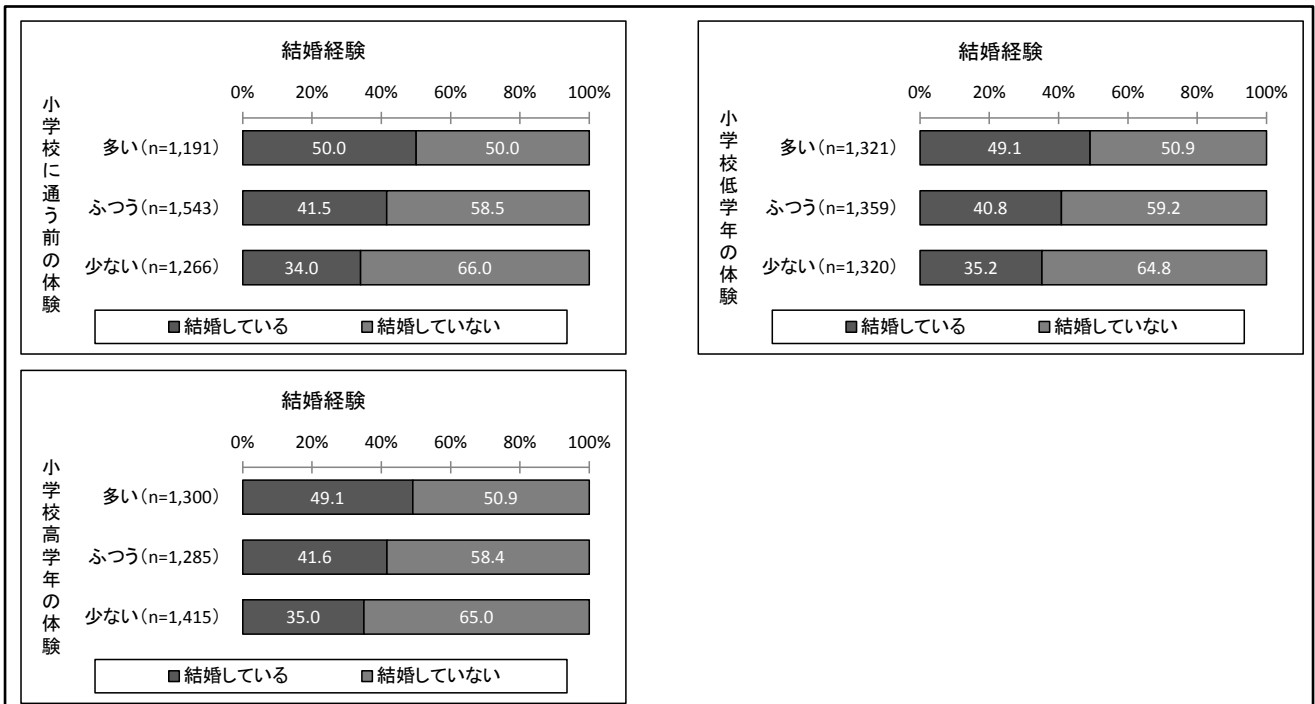


図4-2-2 小学生の時までの時期別の体験と結婚経験の関係

③ 小学生の時までの種類別の体験と結婚経験の関係

小学生の時までの種類別の体験と結婚経験の関係をみると、どの種類についても体験が多くなるにつれて「結婚している」割合は上昇しており、体験が「多い」群ではいずれも約5割、体験が「少ない」群ではいずれも3割台となっている。また、体験が「多い」群と「少ない」群の「結婚している」割合の差は、「友だちとの遊び」(22.4ポイント)が最も大きく、次いで「家族行事」(13.4ポイント)、「地域活動」(12.8ポイント)となっている。

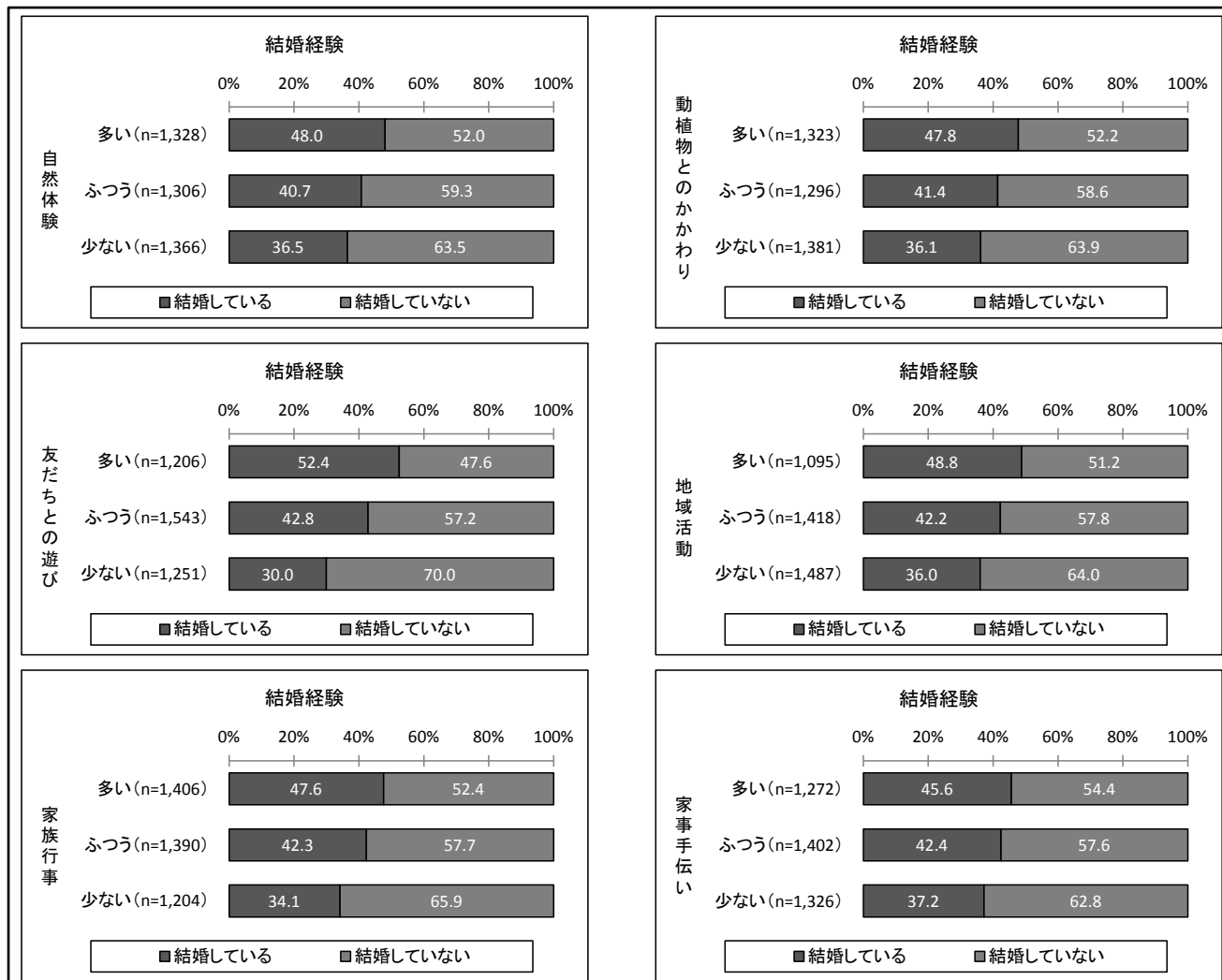


図4-2-3 小学生の時までの種類別の体験と結婚経験の関係

(3) 小学生の時までの体験と結婚願望の関係

注) (3) では、結婚願望について、「早く結婚したい」、「いい人が見つかられば結婚したい」、「いつか結婚したい」の3つをまとめて「結婚したい」として集計している。

① 小学生の時までの体験全体と結婚願望の関係

未婚者について、小学生の時までの体験全体と結婚願望の関係をみると、体験が多くなるにつれて「結婚したい」割合は上昇しており、体験が「多い」群では8割台、体験が「少ない」群では6割台となっている。

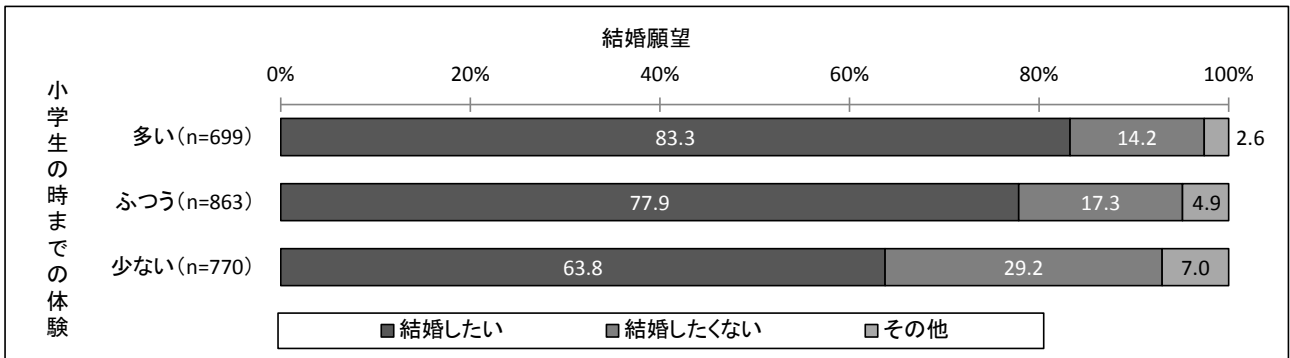


図4-3-1 小学生の時までの体験全体と結婚願望の関係

② 小学生の時までの時期別の体験と結婚願望の関係

小学生の時までの時期別の体験と結婚願望の関係をみると、「小学校に通う前」、「小学校低学年」、「小学校高学年」のどの時期についても体験が多くなるにつれて「結婚したい」割合は上昇しており、体験が「多い」群ではいずれも8割台、体験が「少ない」群ではいずれも6割台となっている。

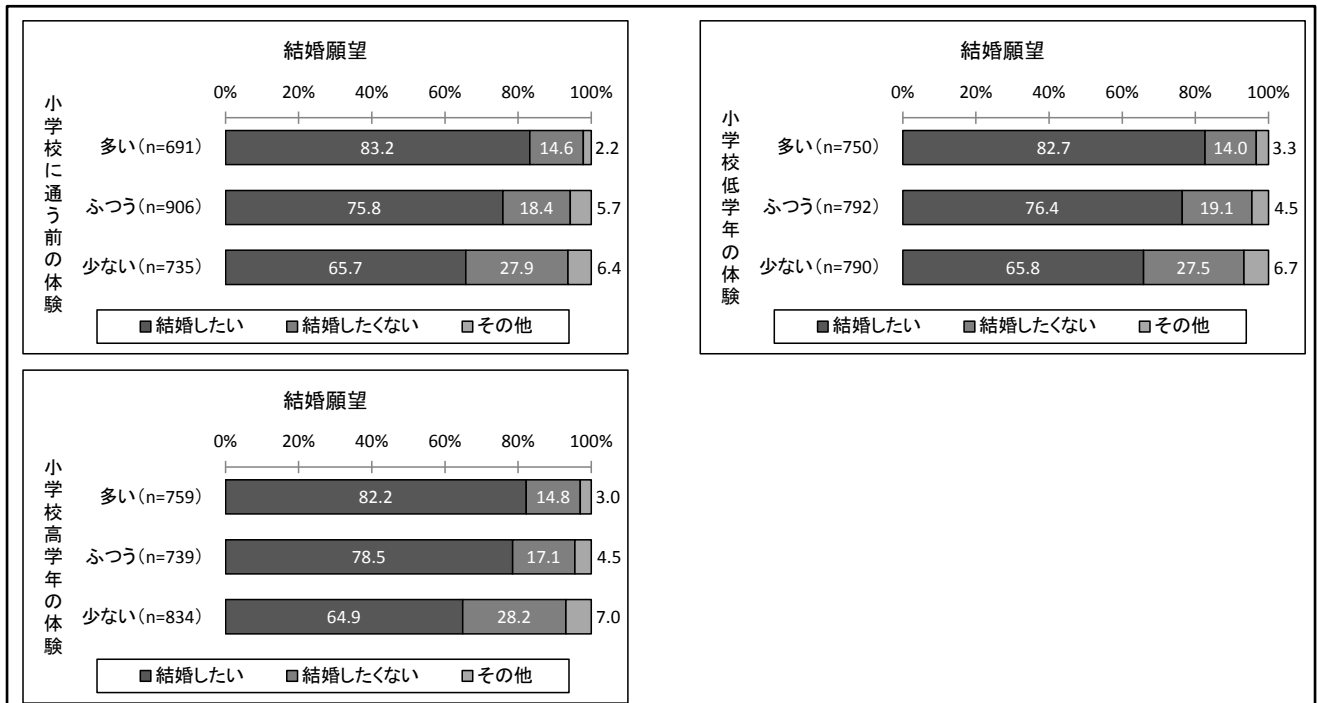


図4-3-2 小学生の時までの時期別の体験と結婚願望の関係

③ 小学生の時までの種類別の体験と結婚願望の関係

小学生の時までの種類別の体験と結婚願望の関係をみると、どの種類についても体験が多くなるにつれて「結婚したい」割合は上昇しており、体験が「多い」群ではいずれも8割台、体験が「少ない」群ではいずれも6割台となっている。また、体験が「多い」群と「少ない」群の「結婚したい」割合の差は、「友だちとの遊び」(18.9ポイント)が最も大きく、次いで「家族行事」(18.4ポイント)、「地域活動」(15.8ポイント)となっている。

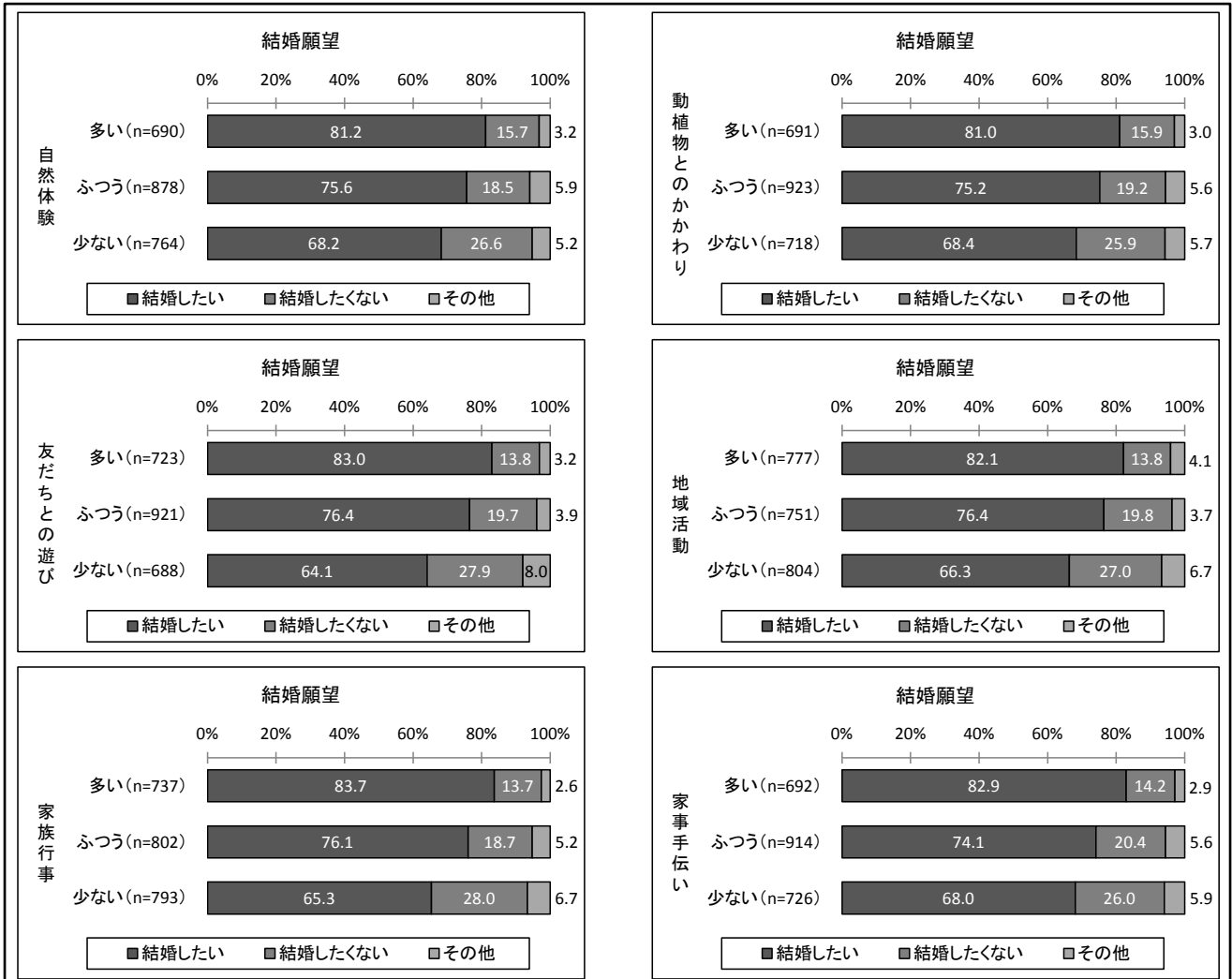


図4-3-3 小学生の時までの種類別の体験と結婚願望の関係

④ 小学生の時までの種類別の体験・性別と結婚願望の関係

小学生の時までの種類別の体験と結婚願望の関係を性別でみると、男女ともにどの種類についても体験が多くなるにつれて「結婚したい」割合は上昇している。また、男性ではどの種類についても、「多い」群と「少ない」群の「結婚したい」割合の差は10ポイントを超えている。

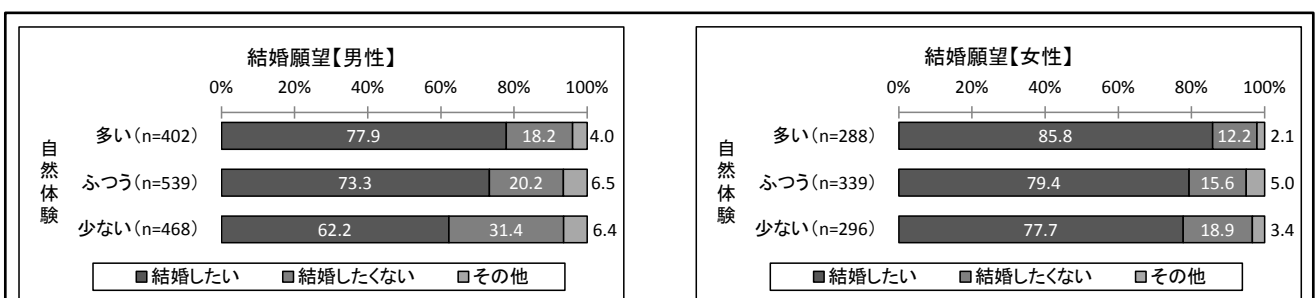


図4-3-4 小学生の時までの「自然体験」と結婚願望の関係 (性別)

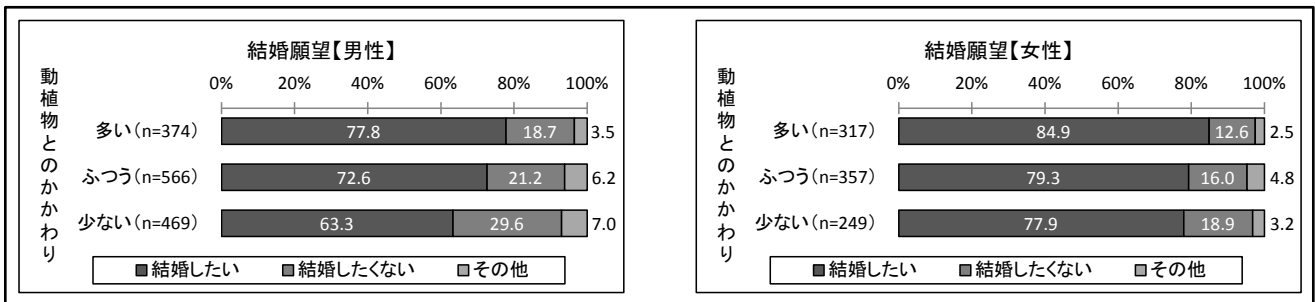


図 4-3-5 小学生の時までの「動物植物とのかわり」と結婚願望の関係 (性別)

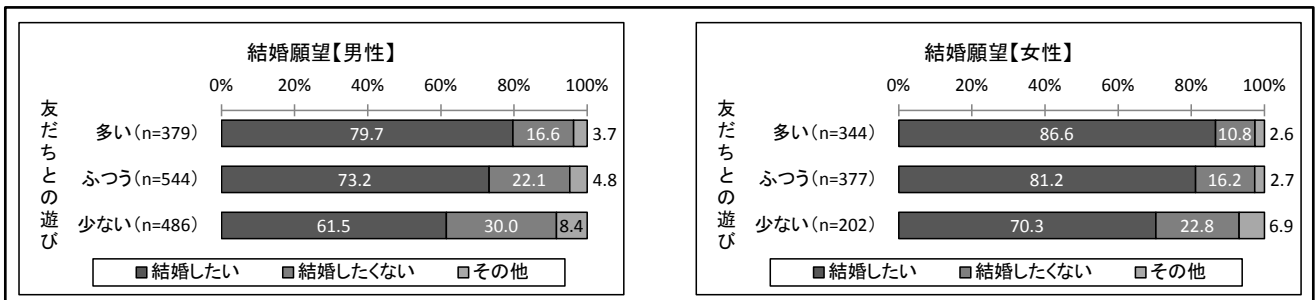


図 4-3-6 小学生の時までの「友だちとの遊び」と結婚願望の関係 (性別)

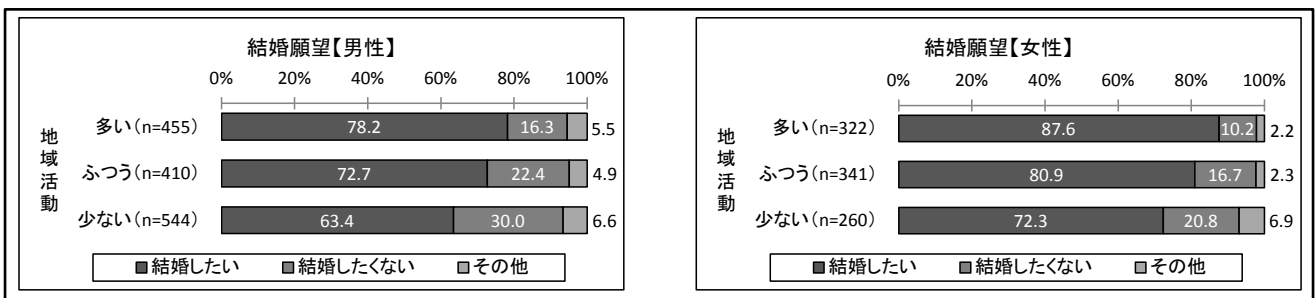


図 4-3-7 小学生の時までの「地域活動」と結婚願望の関係 (性別)

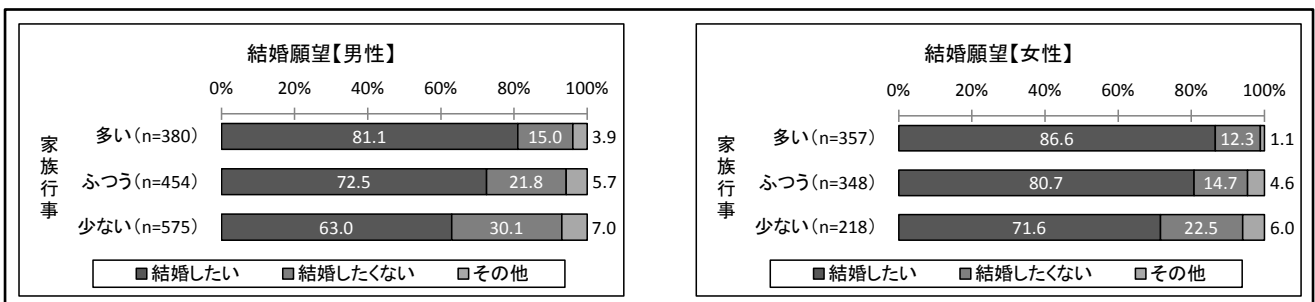


図 4-3-8 小学生の時までの「家族行事」と結婚願望の関係 (性別)

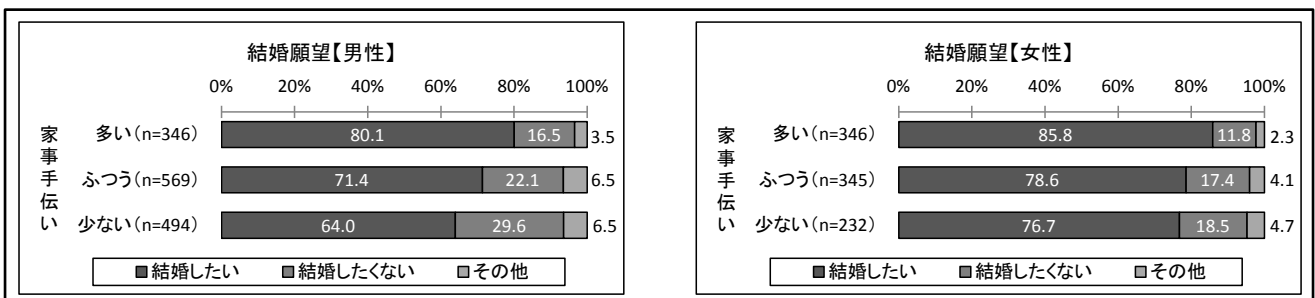


図 4-3-9 小学生の時までの「家事手伝い」と結婚願望の関係 (性別)

(4) 小学生の時までの体験と子育て願望の関係

注) (4) では、子育て願望について、「結婚したらすぐにでも欲しい」、「夫婦2人の生活を十分に楽しんだ後に欲しい」、「夫婦生活が安定したら欲しい」、「結婚したいと思わないが、子供は欲しい」の4つをまとめて「子供は欲しい」として集計している。

① 小学生の時までの体験全体と子育て願望の関係

子供がいない人について、小学生の時までの体験全体と子育て願望の関係をみると、体験が多くなるにつれて「子供は欲しい」割合は上昇しており、体験が「多い」群では7割台、体験が「少ない」群では5割台となっている。

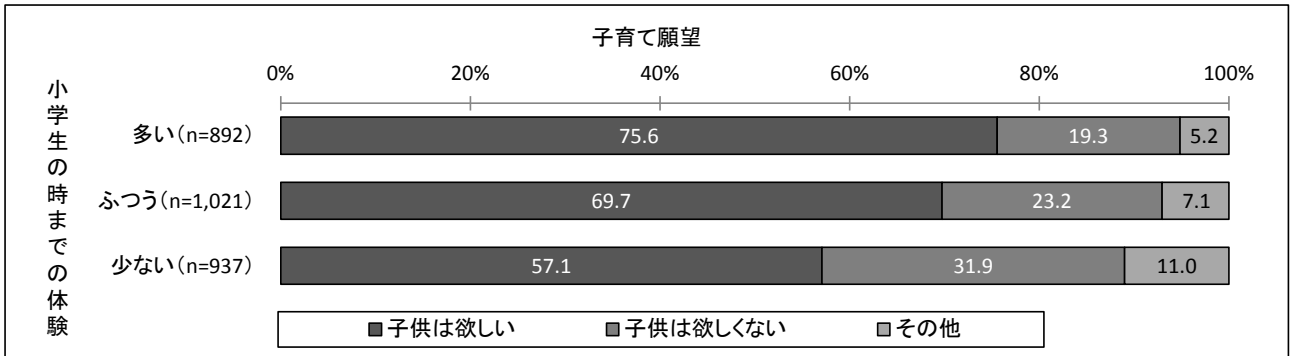


図4-4-1 小学生の時までの体験全体と子育て願望の関係

② 小学生の時までの時期別の体験と子育て願望の関係

小学生の時までの時期別の体験と子育て願望の関係をみると、「小学校に通う前」、「小学校低学年」、「小学校高学年」のどの時期についても体験が多くなるにつれて「子供は欲しい」割合は上昇しており、体験が「多い」群ではいずれも7割台、体験が「少ない」群ではいずれも約6割となっている。

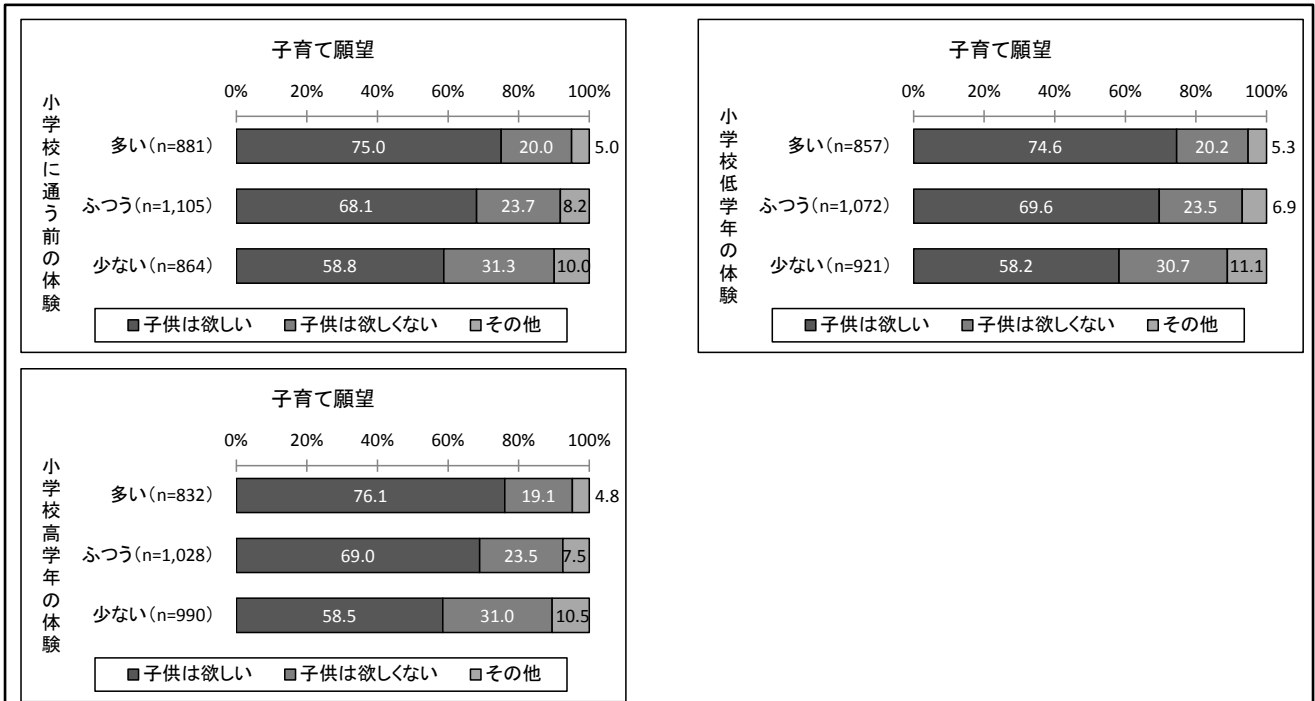


図4-4-2 小学生の時までの時期別の体験と子育て願望の関係

③ 小学生の時までの種類別の体験と子育て願望の関係

小学生の時までの種類別の体験と子育て願望の関係をみると、どの種類についても体験が多くなるにつれて「子供は欲しい」割合は上昇しており、体験が「多い」群ではいずれも7割台、体験が「少ない」群ではいずれも約6割となっている。また、体験が「多い」群と「少ない」群の「子供は欲しい」割合の差は、「友だちとの遊び」(18.3ポイント)が最も大きく、次いで「家族行事」(18.0ポイント)、「地域活動」(16.5ポイント)となっている。

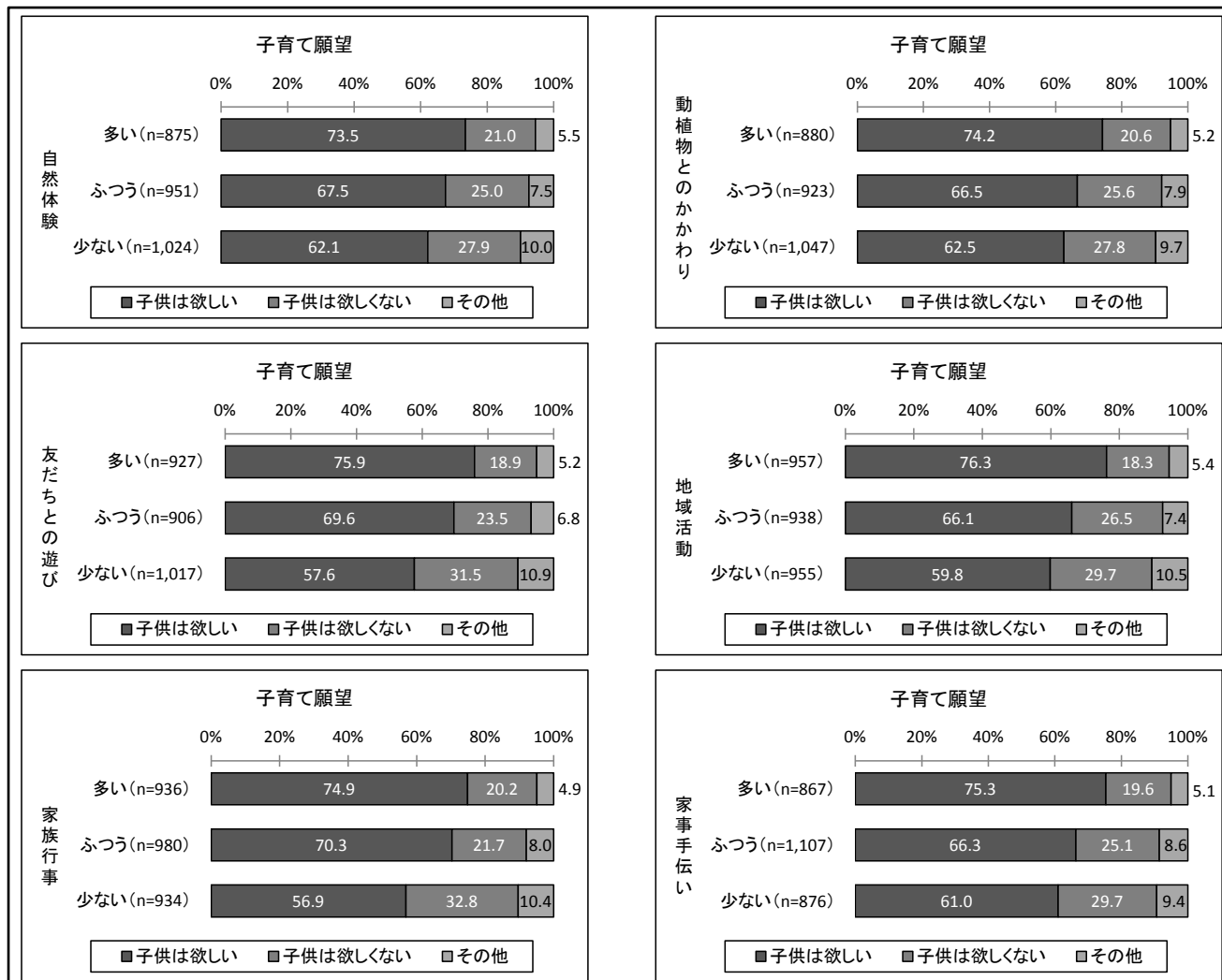


図4-4-3 小学生の時までの種類別の体験と子育て願望の関係

④ 小学生の時までの種類別の体験・性別と子育て願望の関係

小学生の時までの種類別の体験と子育て願望の関係を性別でみると、男女ともにどの種類についても体験が多くなるにつれて「子供は欲しい」割合は上昇している。また、男女ともにどの種類についても、「多い」群と「少ない」群の「子供は欲しい」割合の差は10ポイントを超えている。

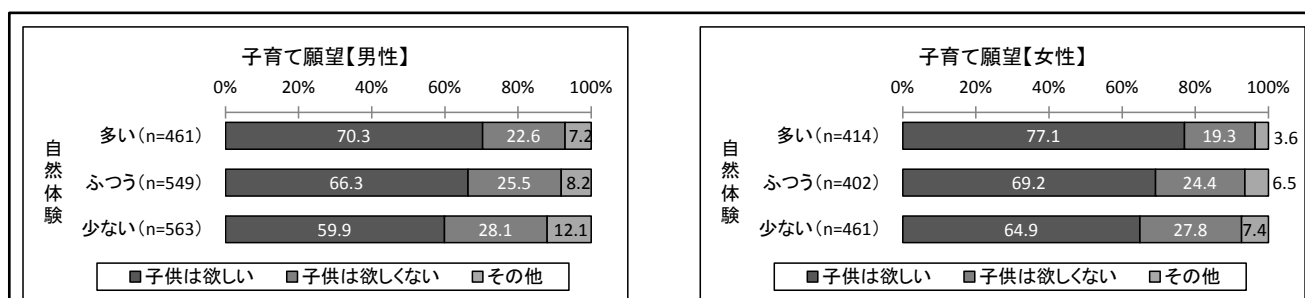


図4-4-4 小学生の時までの「自然体験」と子育て願望の関係(性別)

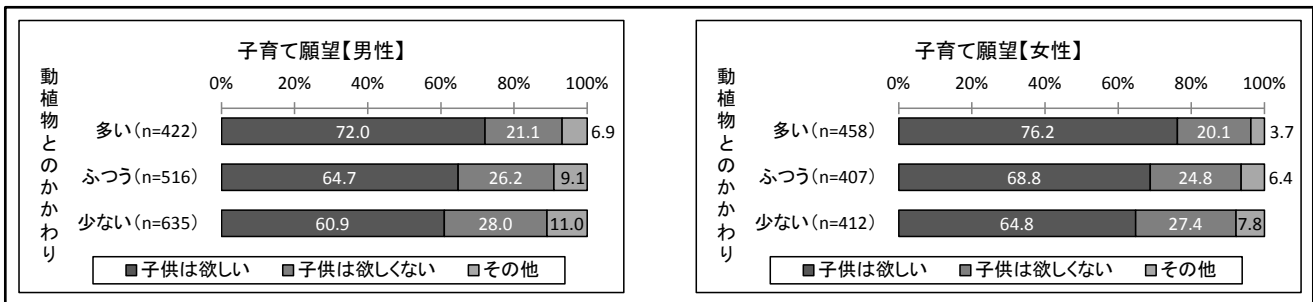


図4-4-5 小学生の時までの「動植物とのかかわり」と子育て願望の関係（性別）

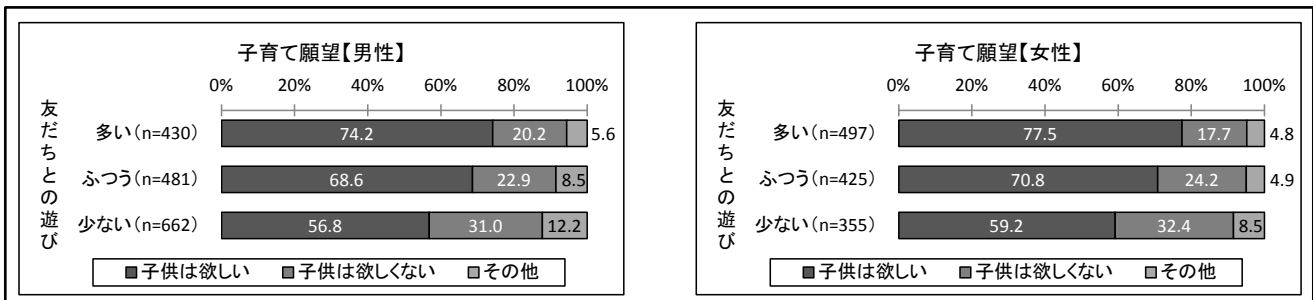


図4-4-6 小学生の時までの「友だちとの遊び」と子育て願望の関係（性別）

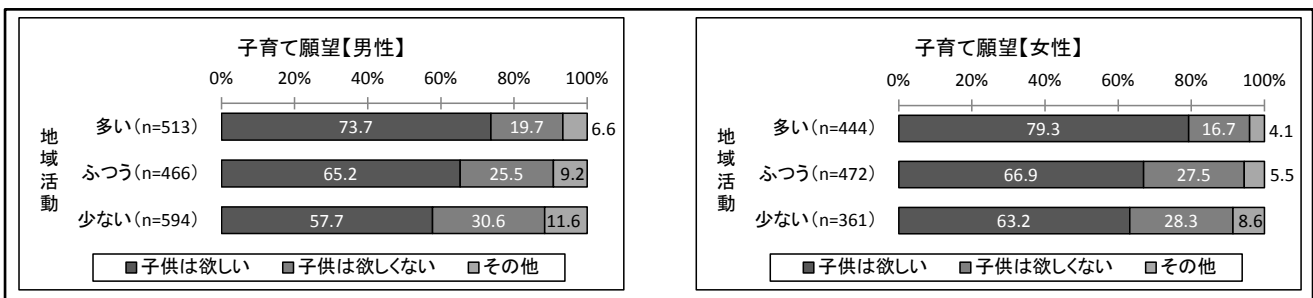


図4-4-7 小学生の時までの「地域活動」と子育て願望の関係（性別）

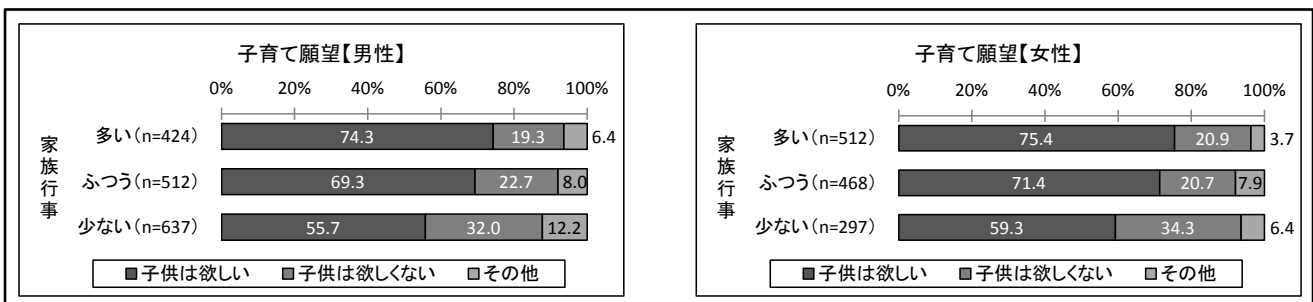


図4-4-8 小学生の時までの「家族行事」と子育て願望の関係（性別）

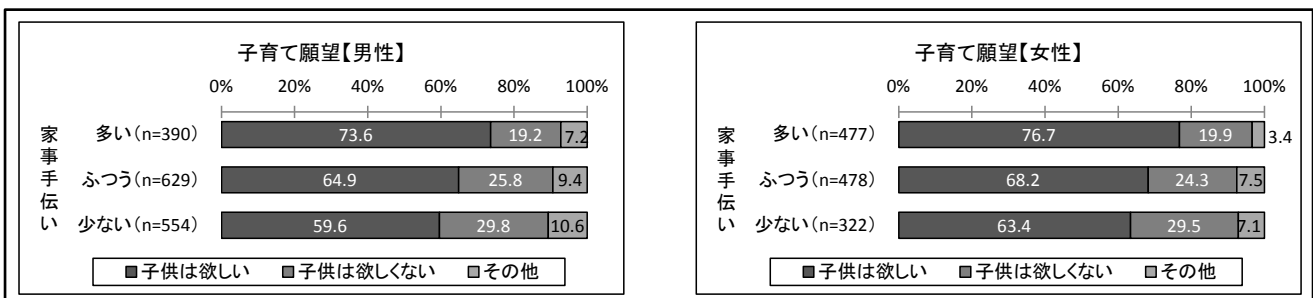


図4-4-9 小学生の時までの「家事手伝い」と子育て願望の関係（性別）

(5) 小学生の時までの体験と子供の存在についての考えの関係

① 小学生の時までの体験全体と子供の存在についての考えの関係

小学生の時までの体験全体と子供の存在についての考えの関係をみると、家族の「継続」を重視する家族観も「生きがい」を重視する家族観も、体験が多くなるにつれて「強い」群の割合は上昇している。また、体験が「多い」群と「少ない」群では、家族の「継続」を重視する家族観の「強い」群の割合の差は約 15 ポイントなのに対し、「生きがい」を重視する家族観の「強い」群の割合の差は約 30 ポイントとなっている。

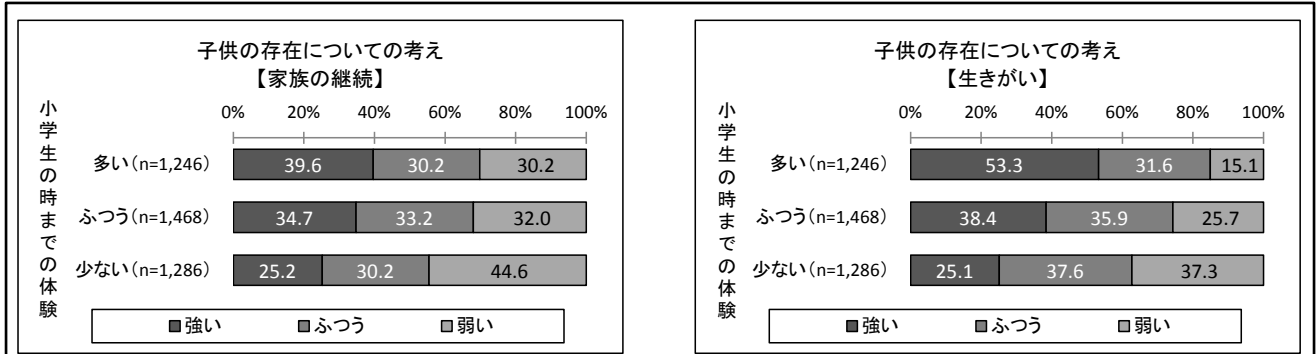


図 4-5-1 小学生の時までの体験全体と子供の存在についての考えの関係

② 小学生の時までの種類別の体験と子供の存在についての考えの関係

小学生の時までの種類別の体験と子供の存在についての考えの関係をみると、家族の「継続」を重視する家族観と「生きがい」を重視する家族観ともに、どの種類についても体験が多くなるにつれて「強い」群の割合は上昇している。また、体験が「多い」群と「少ない」群では、家族の「継続」を重視する家族観の「強い」群の割合の差が 10 ポイントを超えているのは「地域活動」、「家族行事」、「家事手伝い」の 3 種類である一方、「生きがい」を重視する家族観の「強い」群の割合の差は「自然体験」を除いて 20 ポイントを超えている。

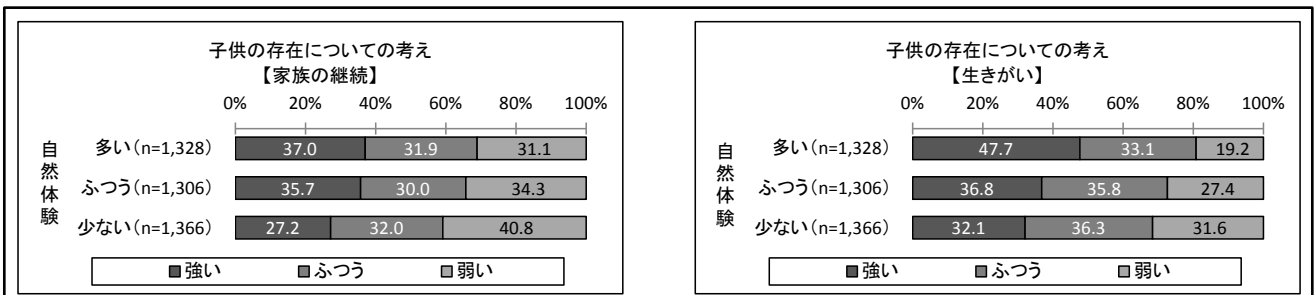


図 4-5-2 小学生の時までの「自然体験」と子供の存在についての考えの関係

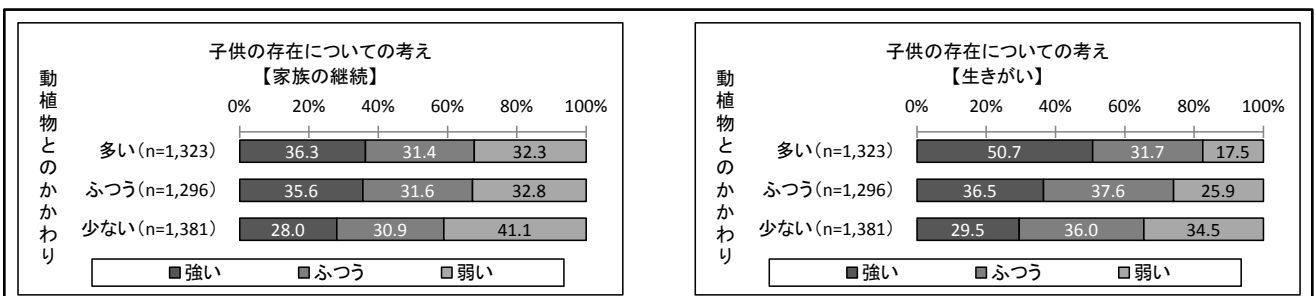


図 4-5-3 小学生の時までの「動植物とのかかわり」と子供の存在についての考えの関係

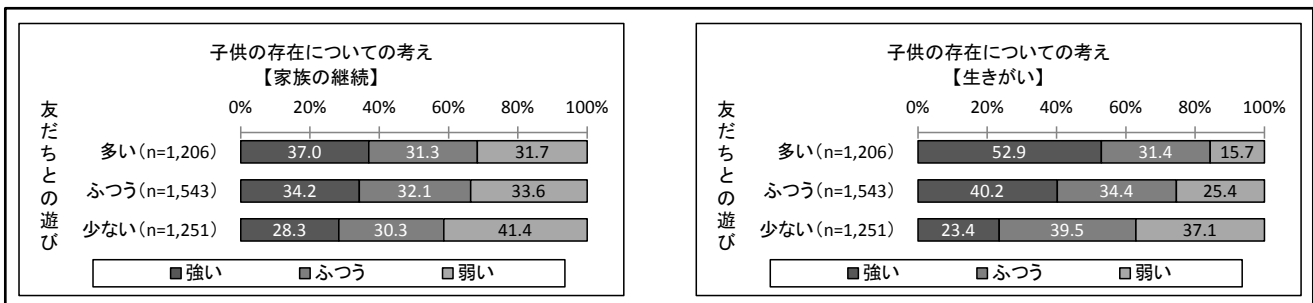


図4-5-4 小学生の時までの「友だちとの遊び」と子供の存在についての考えの関係

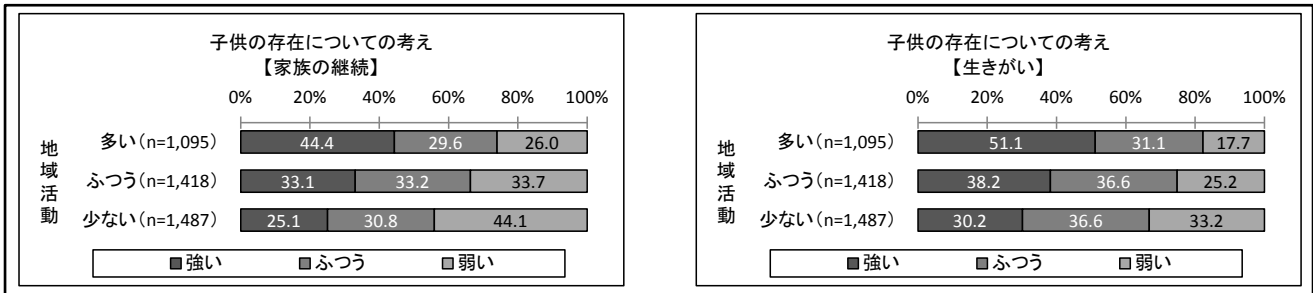


図4-5-5 小学生の時までの「地域活動」と子供の存在についての考えの関係

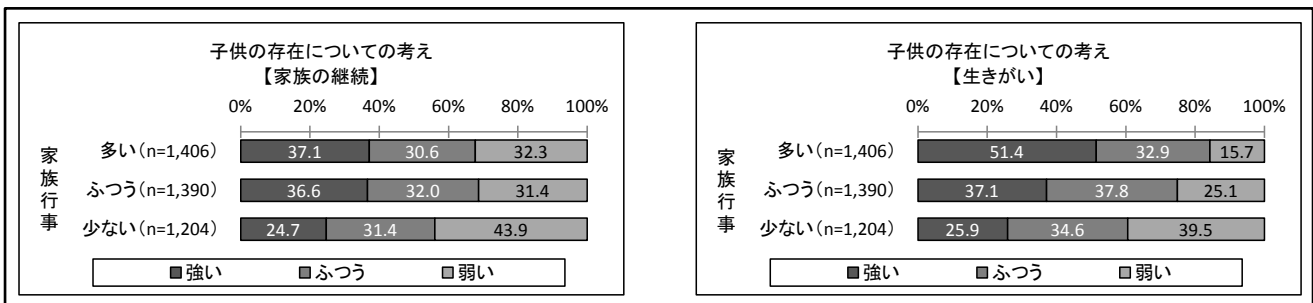


図4-5-6 小学生の時までの「家族行事」と子供の存在についての考えの関係

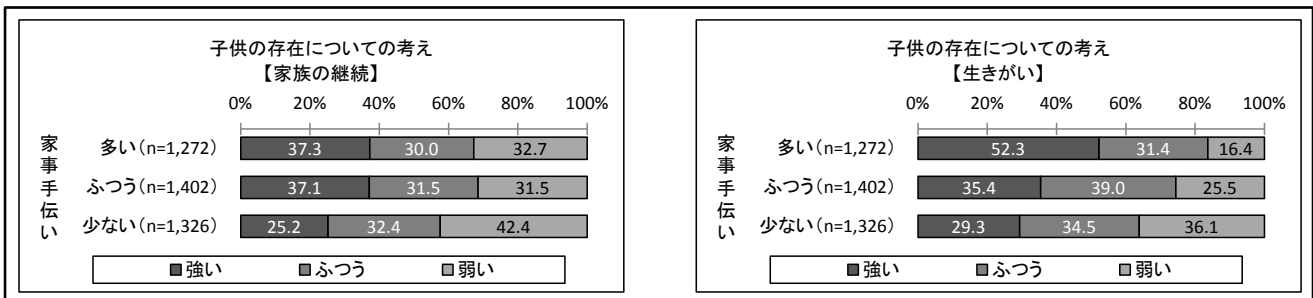


図4-5-7 小学生の時までの「家事手伝い」と子供の存在についての考えの関係

5. 中学生や高校生の時の「異性との関係」と結婚願望の関係

(1) 中学生の時の「異性との関係」と結婚願望の関係

① 中学生の時の「異性との関係」

中学生の時の「異性との関係」について、「とても当てはまる」と「やや当てはまる」の割合の合計をみると、「同性と異性では、話す内容を分ける」(52.1%)が最も高く、次いで「異性関係は面倒なものである」(49.6%)、「異性にも自分の考えをはっきり伝えることができる」(42.3%)となっている。

結婚経験別でみると、「異性関係は面倒なものだと思う」については、「とても当てはまる」と「やや当てはまる」の割合の合計は結婚していない人の方が10ポイント程度高くなっている。

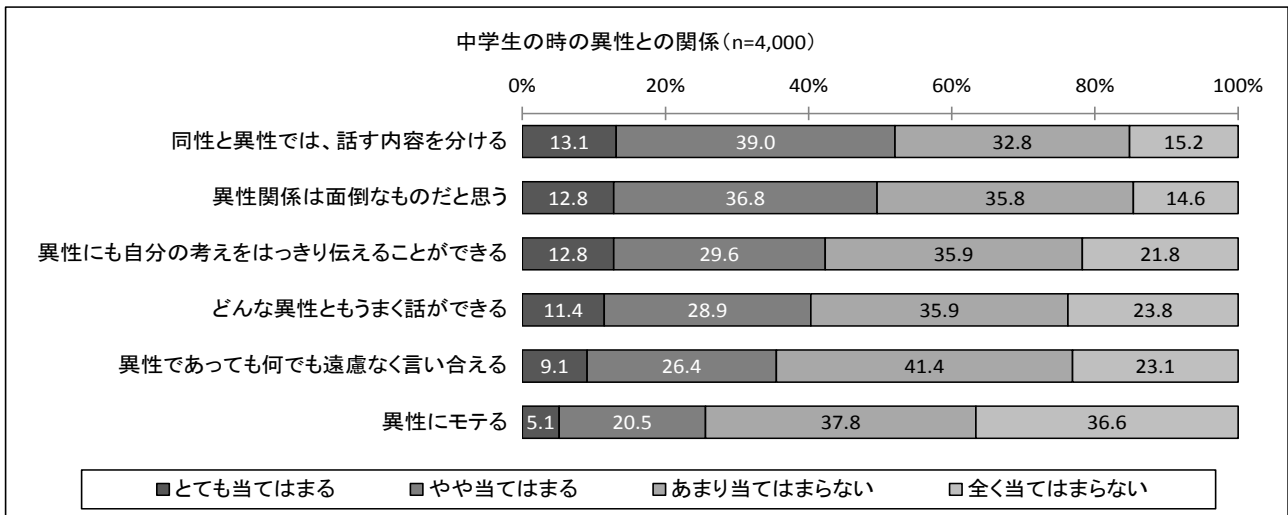


図5-1-1 中学生の時の異性との関係

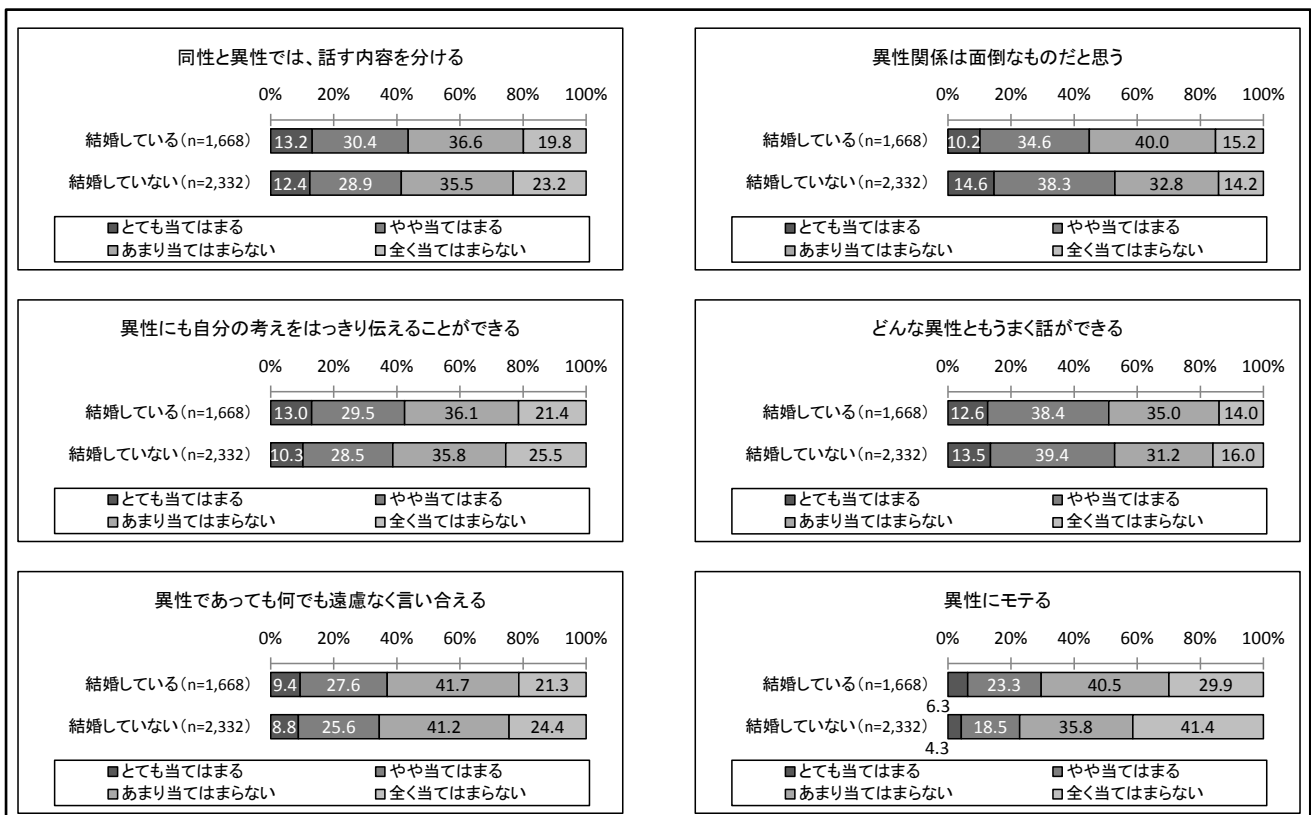


図5-1-2 中学生の時の異性との関係 (結婚経験別)

注) 結婚経験については、現在「結婚している」人と過去に「結婚していたことがある」人をまとめて「結婚している」として集計している。

② 中学生の時の「異性との関係」と結婚願望の関係

結婚していない人について、中学生の時の「異性との関係」と結婚願望の関係をみると、「異性関係は面倒なものだと思う」については、「とても当てはまる」人の「結婚したくない」割合が最も高く、3割台となっている。一方、「異性関係は面倒なものだと思う」以外の項目については、「全く当てはまらない」人の「結婚したくない」割合が最も高く、いずれも約3割となっている。

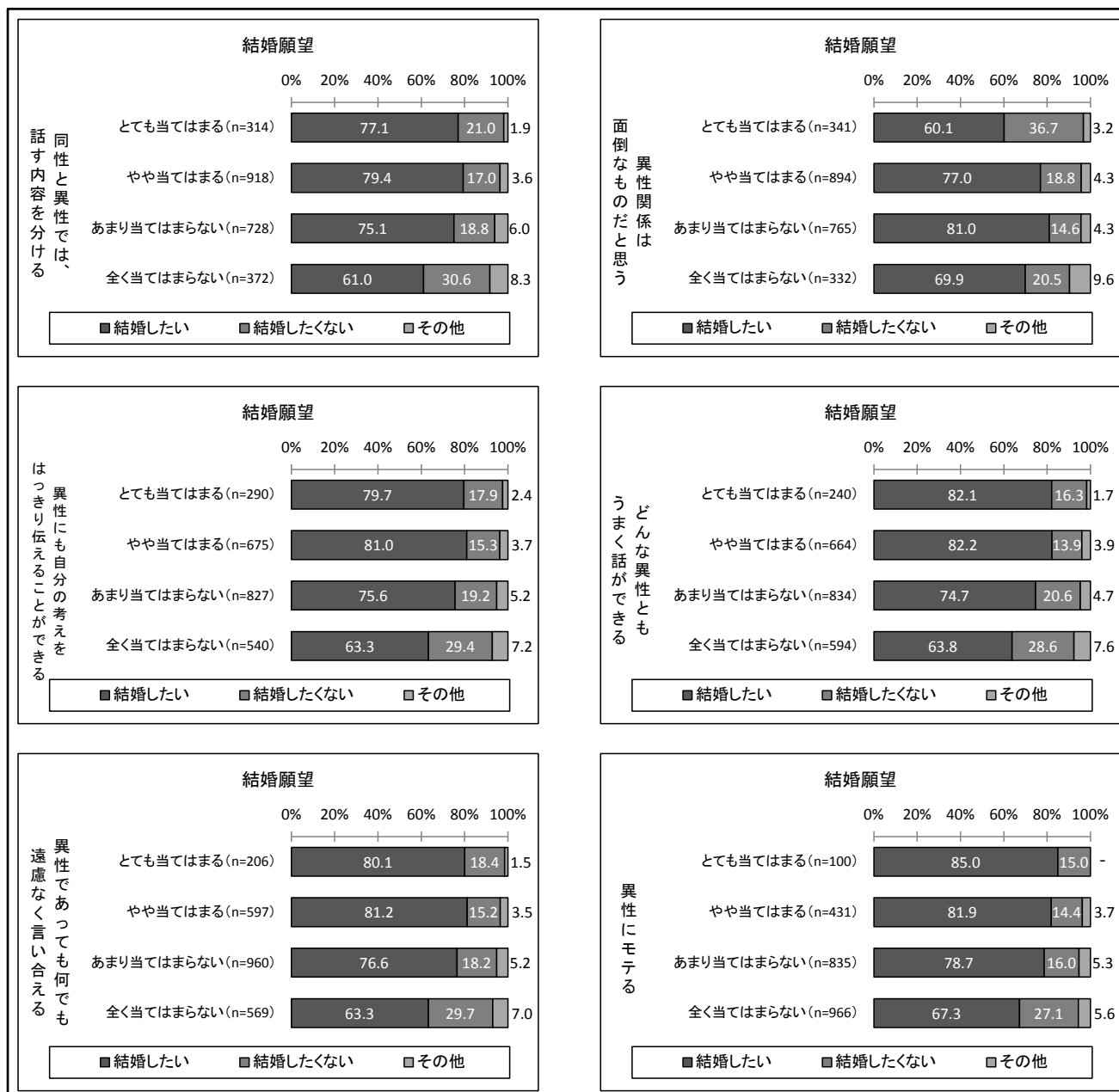


図5-1-3 中学生の時の「異性との関係」と結婚願望の関係

注) 結婚願望については、「早く結婚したい」、「いい人が見つければ結婚したい」、「いつか結婚したい」の3つをまとめて「結婚したい」として集計している。

(2) 高校生の時の「異性との関係」と結婚願望の関係

注) (2) では、高等学校に通ったことがある人のみを集計対象としている。

① 高校生の時の「異性との関係」

高校生の時の「異性との関係」について、「とても当てはまる」と「やや当てはまる」の割合の合計をみると、「同性と異性では、話す内容を分ける」(51.7%)が最も高く、次いで「異性関係は面倒なものだと思ふ」(48.1%)、「異性にも自分の考えをはっきり伝えることができる」(41.6%)となっている。

結婚経験別でみると、「異性関係は面倒なものだと思ふ」については、「とても当てはまる」と「やや当てはまる」の割合の合計は結婚していない人の方が10ポイント程度高くなっている。

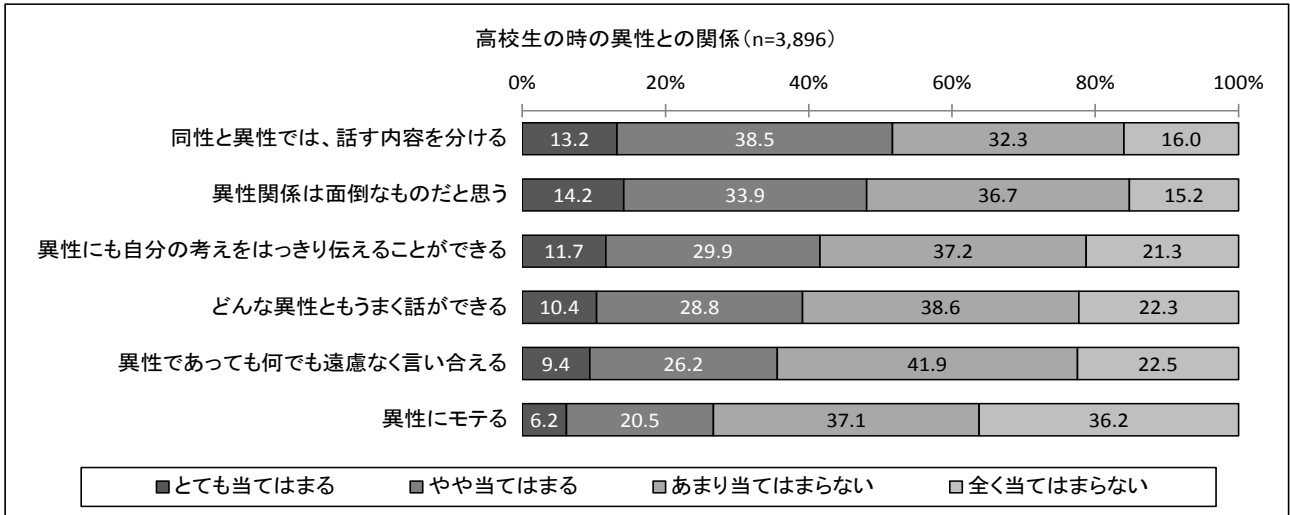


図5-2-1 高校生の時の異性との関係

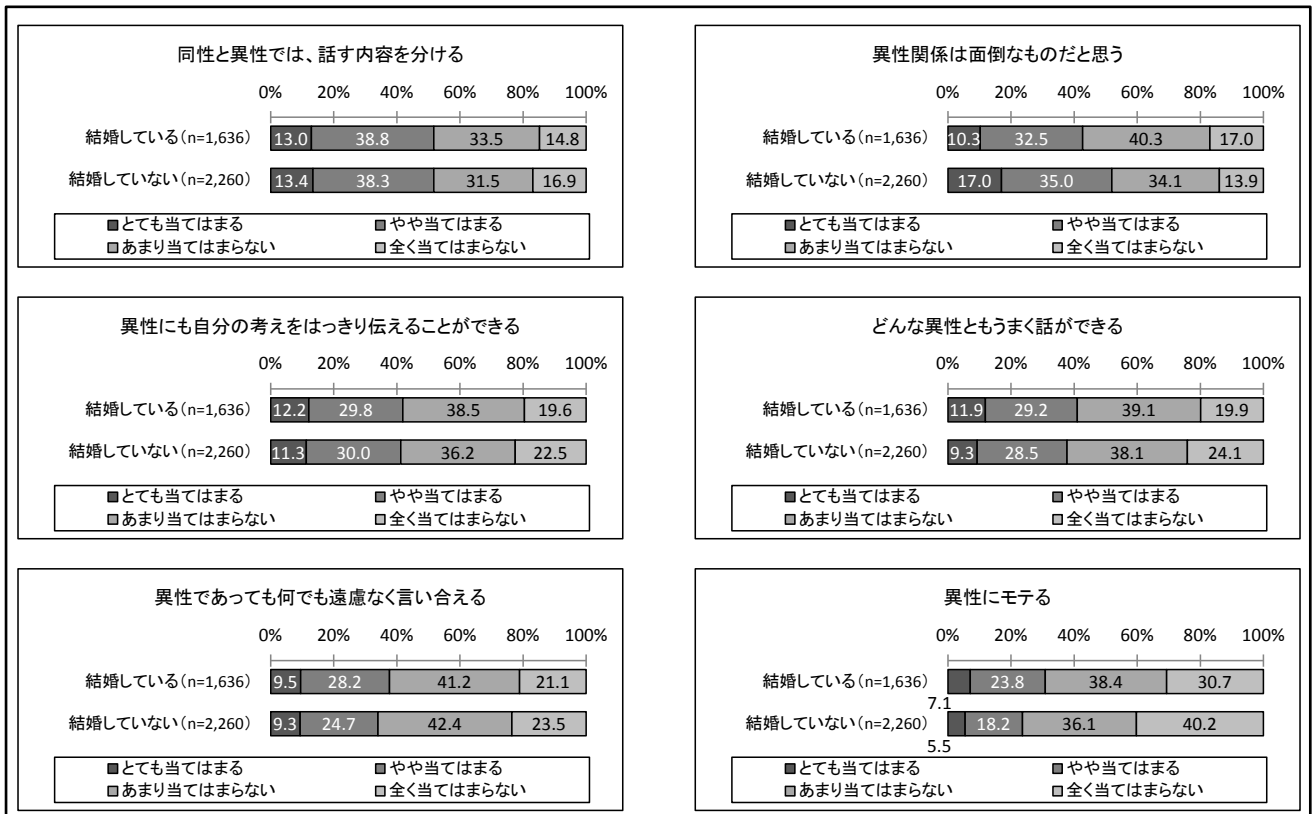


図5-2-2 高校生の時の異性との関係 (結婚経験別)

注) 結婚経験については、現在「結婚している」と過去に「結婚していたことがある」人をまとめて「結婚している」として集計している。

② 高校生の時の「異性との関係」と結婚願望の関係

結婚していない人について、高校生の時の「異性との関係」と結婚願望の関係をみると、「異性関係は面倒なものだと思う」については、「とても当てはまる」人の「結婚したくない」割合が最も高く、3割台となっている。一方、「異性関係は面倒なものだと思う」以外の項目については、「全く当てはまらない」人の「結婚したくない」割合が最も高く、いずれも約3割となっている。

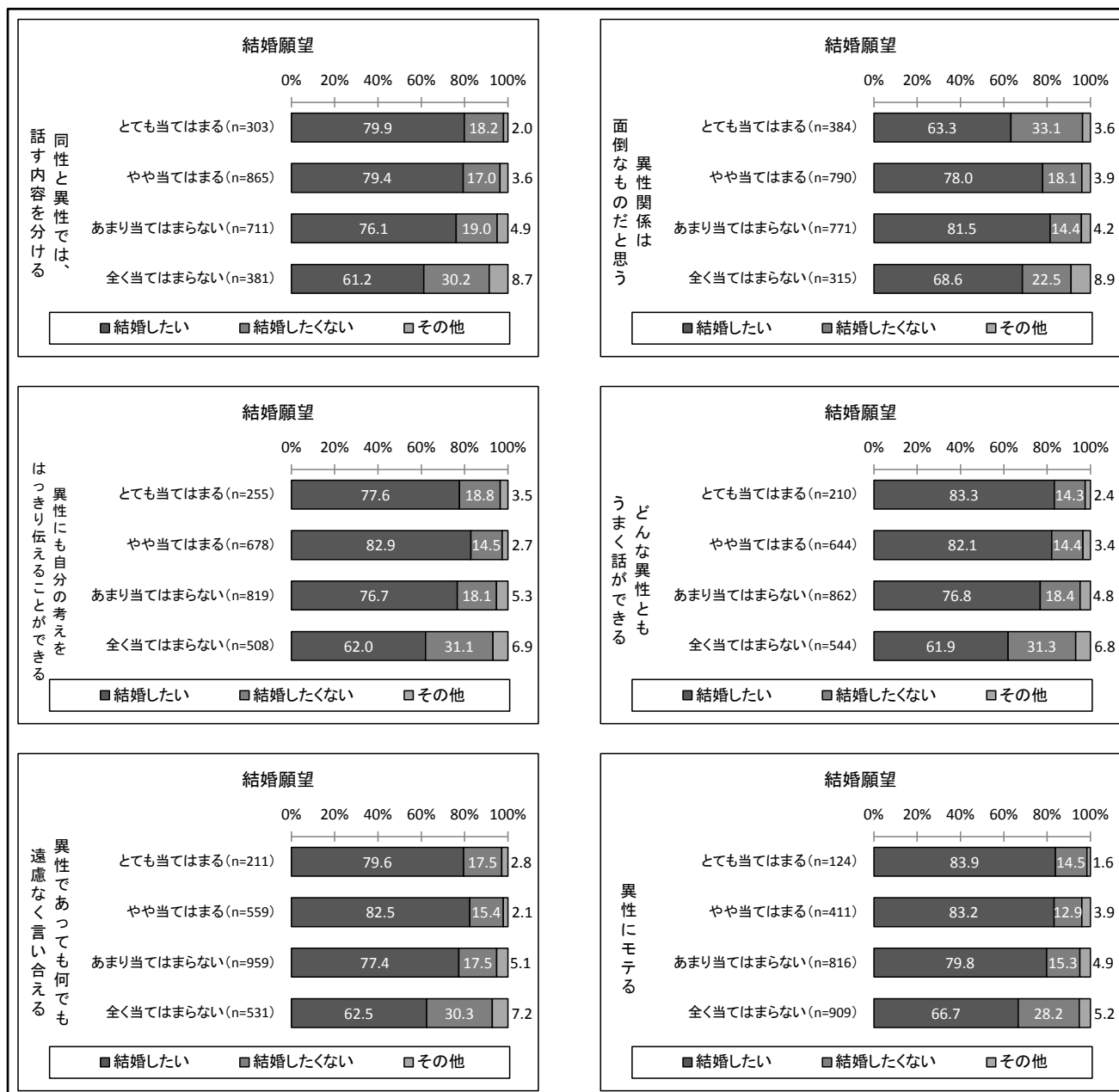


図5-2-3 高校生の時の「異性との関係」と結婚願望の関係

注) 結婚願望については、「早く結婚したい」、「いい人が見つければ結婚したい」、「いつか結婚したい」の3つをまとめて「結婚したい」として集計している。

6. 地域とのつながりと結婚願望・子育て願望の関係

(1) ふだんの生活で行っていることと結婚願望・子育て願望の関係

① ふだんの生活で行っていること

ふだんの生活で行っていることは、「近所の人とあいさつをする」(50.8%)が最も高く、次いで「都道府県や市町村の広報誌(たより)を読んでいる」(25.1%)、「自治会、町内会に加入している」(22.0%)となっている。

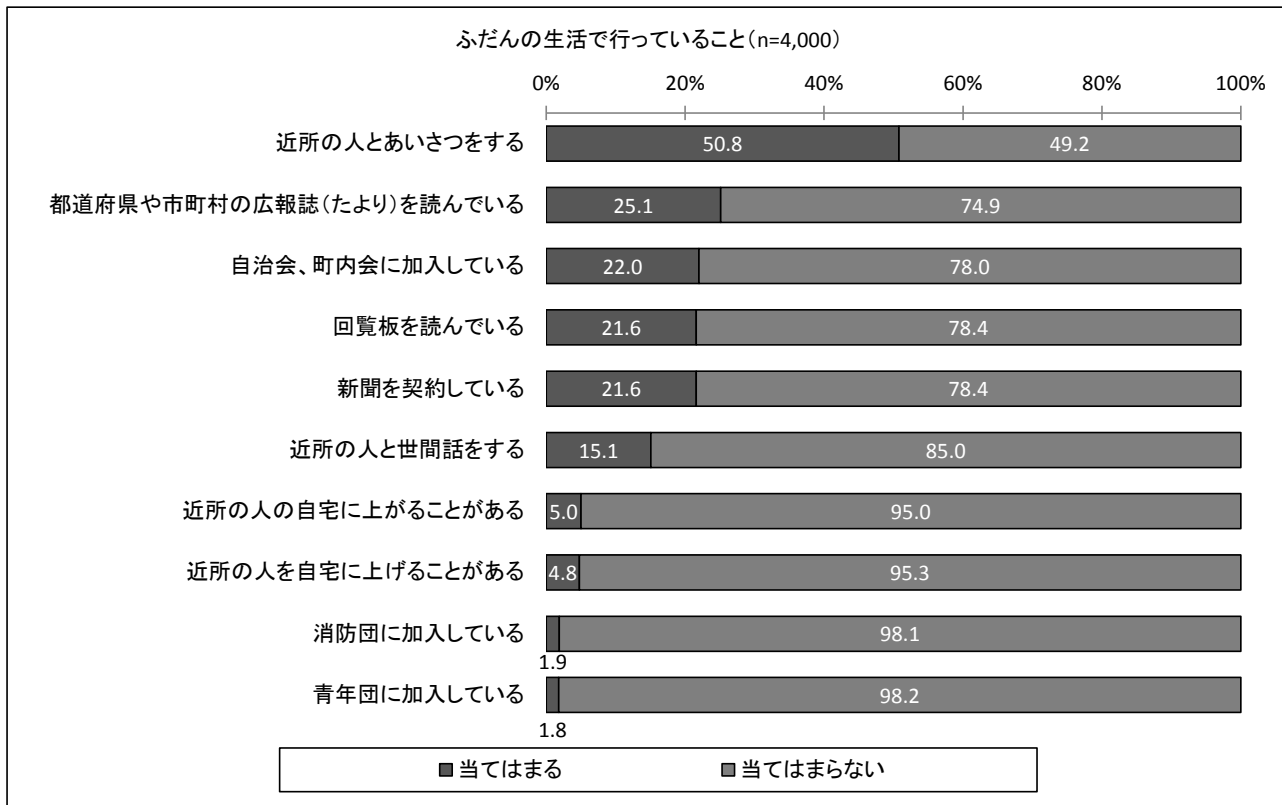


図6-1-1 ふだんの生活で行っていること

注) ②と③では、ふだんの生活で行っていることのうち、「当てはまる」と回答した人が1割以上の項目のみを集計対象としている。

② ふだんの生活で行っていることと結婚願望の関係

ふだんの生活で行っていることと結婚願望の関係をみると、どの項目についても、「当てはまる」人の方が「結婚したい」割合は高くなっている。また、「当てはまる」人と「当てはまらない」人で「結婚したい」割合の差が最も大きいのは「近所の人とあいさつをする」であり、約10ポイントとなっている。

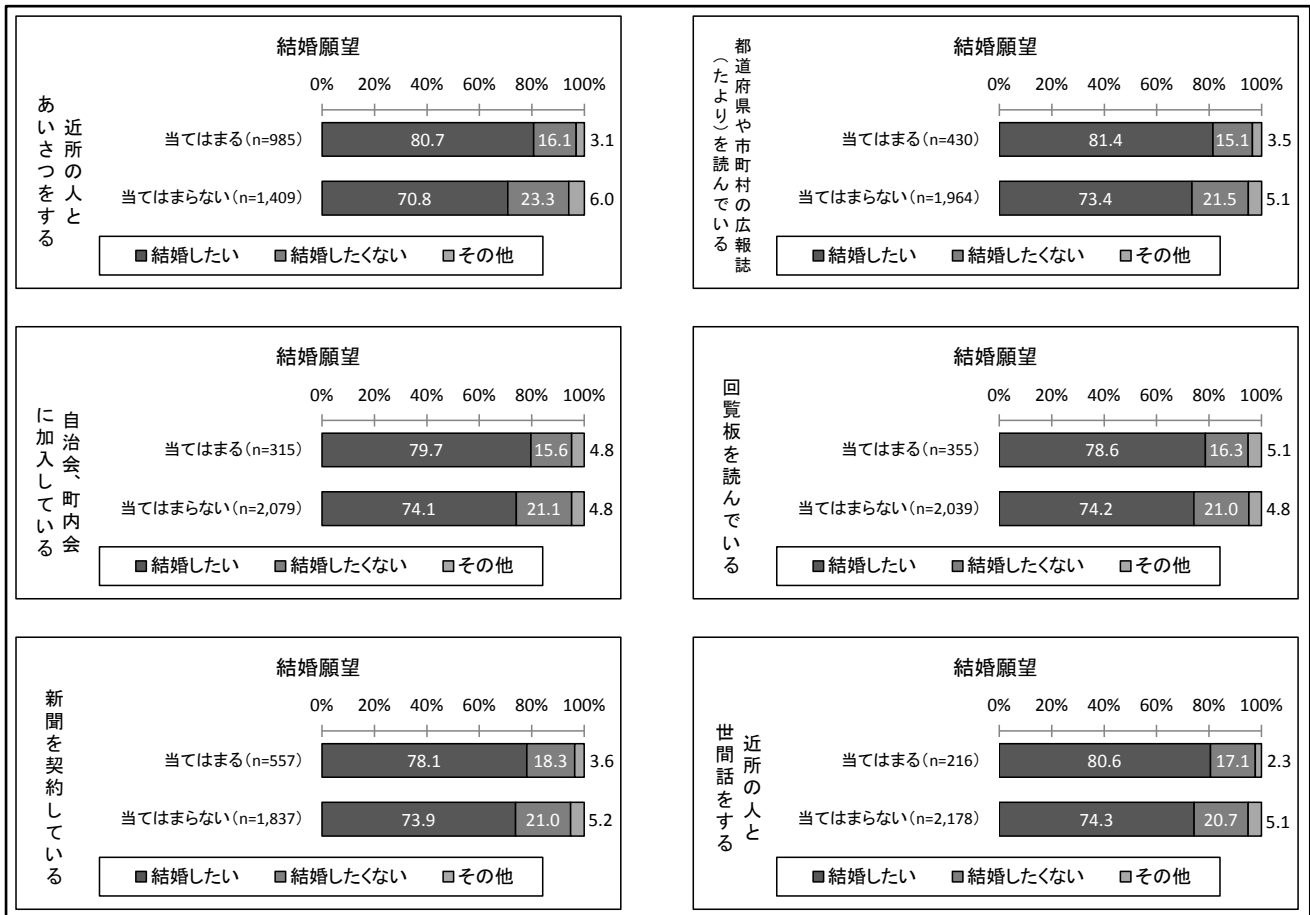


図6-1-2 ふだんの生活で行っていることと結婚願望の関係

注) 結婚願望については、「早く結婚したい」、「いい人が見つければ結婚したい」、「いつか結婚したい」の3つをまとめて「結婚したい」として集計している。

③ ふだんの生活で行っていることと子育て願望の関係

ふだんの生活で行っていることと子育て願望の関係をみると、どの項目についても、「当てはまる」人の方が「子供は欲しい」割合は高くなっている。また、「当てはまる」人と「当てはまらない」人で「子供は欲しい」割合の差が最も大きいのは「近所の人とあいさつをする」であり、約15ポイントとなっている。

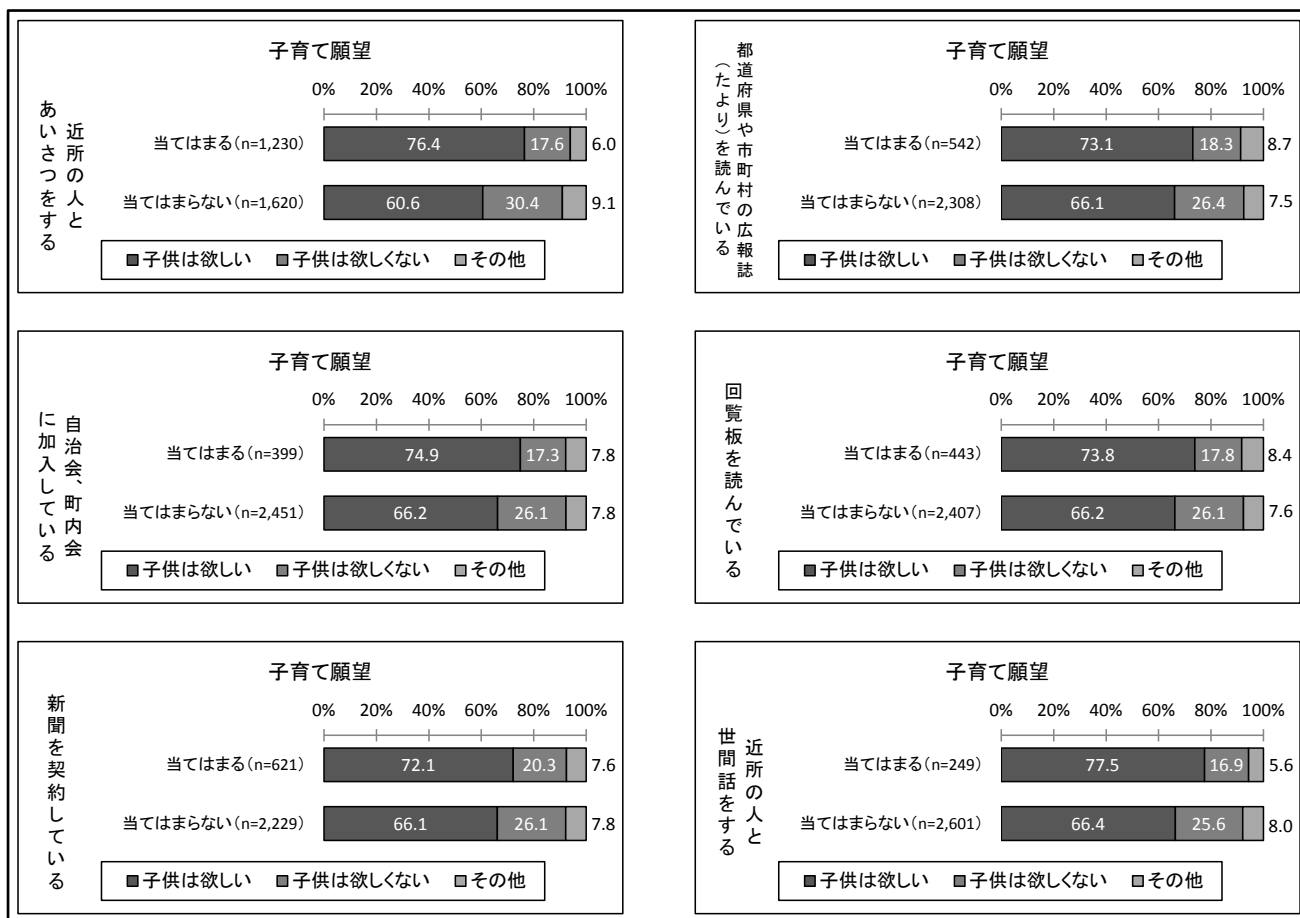


図6-1-3 ふだんの生活で行っていることと子育て願望の関係

注) 子育て願望については、「結婚したらすぐにでも欲しい」、「夫婦2人の生活を十分に楽しんだ後に欲しい」、「夫婦生活が安定したら欲しい」、「結婚したいと思わないが、子供は欲しい」の4つをまとめて「子供は欲しい」として集計している。

(2) 地域とのつながりについての考え方と結婚願望・子育て願望の関係

① 地域とのつながりについての考え方

地域とのつながりについての考えの「とても当てはまる」と「やや当てはまる」の割合の合計をみると、「人付き合いに苦労しそうである」(73.4%)が最も高く、次いで「いろいろな人と知り合うことができる」(71.7%)、「これからの良い社会を創るために必要である」(70.2%)となっている。

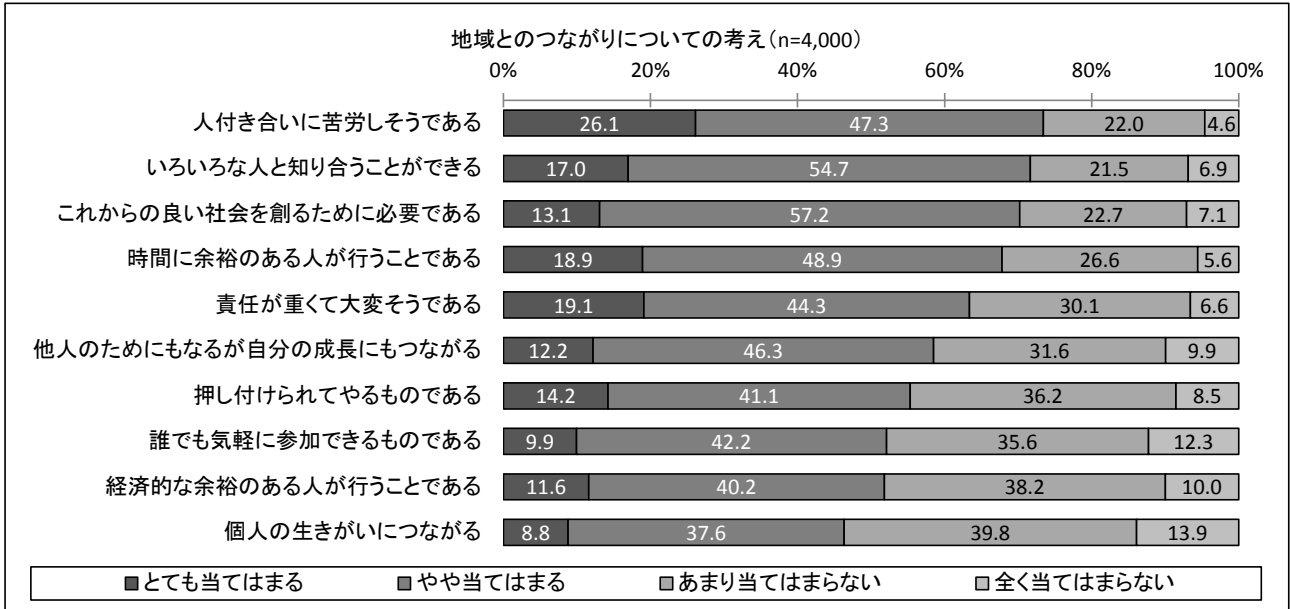


図6-2-1 地域とのつながりについての考え方

② 地域とのつながりについての考えに関する指標

地域とのつながりについての考えの回答のうち、「とても当てはまる」を4点、「やや当てはまる」を3点、「あまり当てはまらない」を2点、「全く当てはまらない」を1点として、10項目を対象とした因子分析(最尤法・プロマックス回転)を行った。

その結果、固有値1以上の因子が2つ抽出された。各因子を代表すると考えられる項目から、第1因子を「前向き」な考え、第2因子を「後ろ向き」な考えと名付けた。

表6-2-1 地域とのつながりについての考えに関する因子構造

	第1因子	第2因子
	前向き	後ろ向き
他人のためにもなるが自分の成長にもつながる	.836	-.006
個人の生きがいにつながる	.762	-.023
これからの良い社会を創るために必要である	.760	.021
誰でも気軽に参加できるものである	.748	-.044
いろいろな人と知り合うことができる	.747	.059
人付き合いに苦労しそうである	-.092	.778
責任が重くて大変そうである	.004	.765
押し付けられてやるものである	-.144	.734
時間に余裕のある人が行うことである	.149	.600
経済的な余裕のある人が行うことである	.165	.579
固有値	3.819	2.563

また、2つの因子ごとに回答の合計得点を計算し、それぞれの考えが「強い」群、「ふつう」の群、「弱い」群の3つに分類した(分類方法の詳細は42ページを参照)。

③ 性別・既婚/未婚・子供の有無と地域とのつながりについての考えの関係

性別と地域とのつながりについての考えの関係をみると、「前向き」な考えと「後ろ向き」な考えともに、「強い」群の割合は女性の方が高くなっている。

また、性別及び既婚/既婚別でみると、「前向き」な考えについては、「強い」群の割合は男女ともに既婚者の方が高くなっているが、「後ろ向き」な考えについては、「強い」群の割合は男性では未婚者の方が高く、女性では既婚者と未婚者で差がみられない。

さらに、性別及び子供の有無別でみると、「前向き」な考えについては、「強い」群の割合は男女ともに既婚者の方が高くなっているが、「後ろ向き」な考えについては、「強い」群の割合は男女ともに未婚者の方が高くなっている。

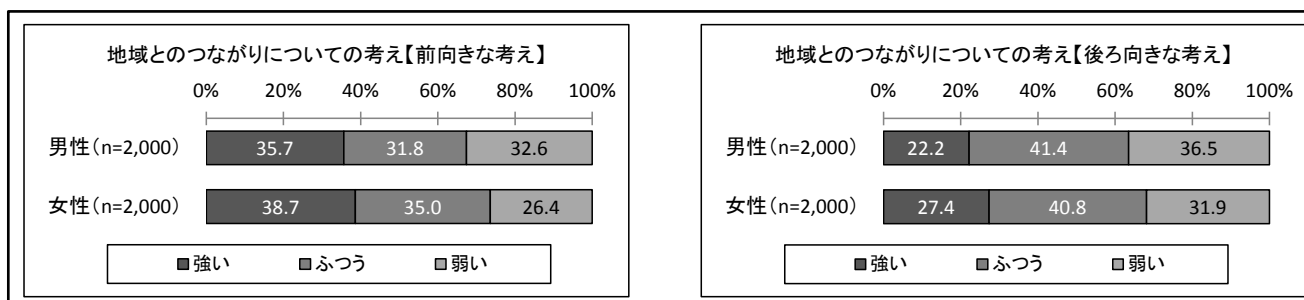


図6-2-2 性別と地域とのつながりについての考えの関係

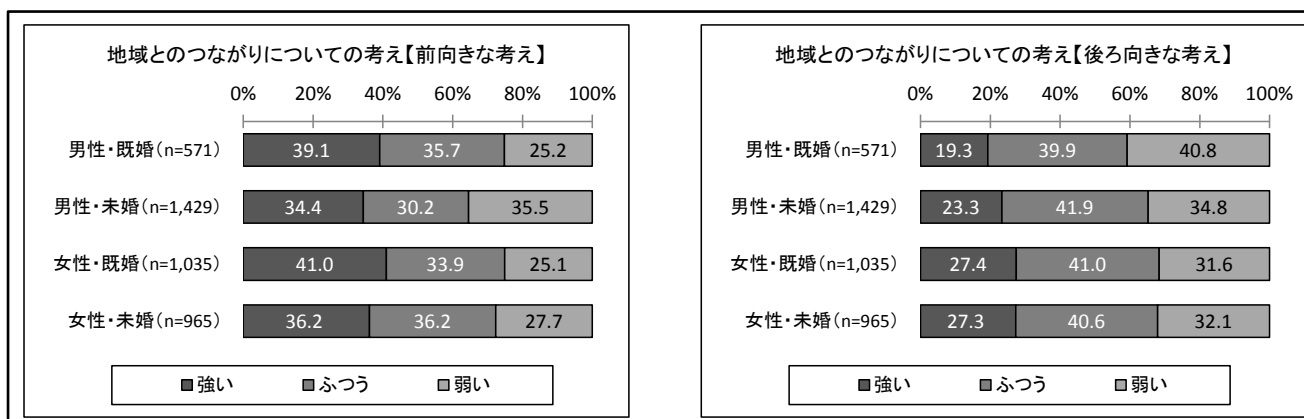


図6-2-3 性別・既婚/未婚と地域とのつながりについての考えの関係

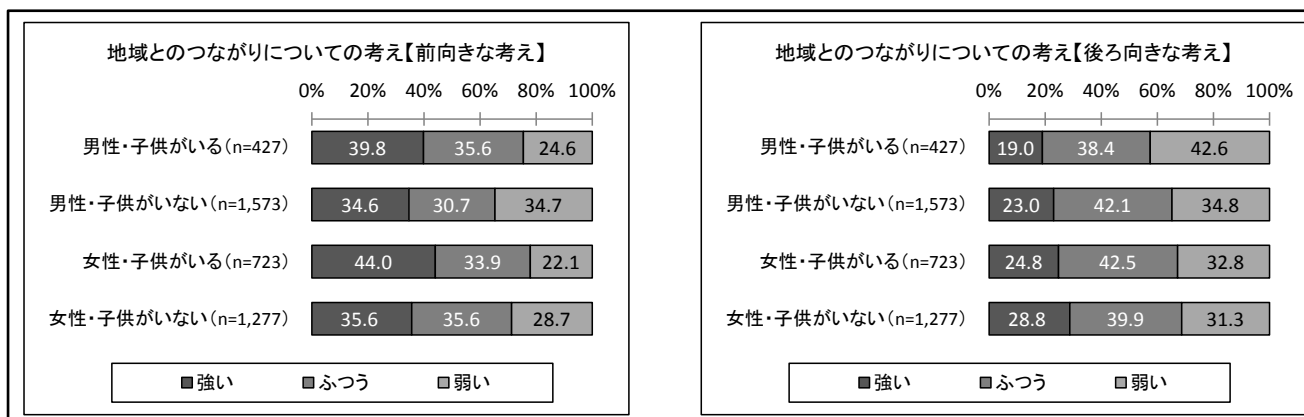


図6-2-4 性別・子供の有無と地域とのつながりについての考えの関係

④ 地域とのつながりについての考えと結婚願望の関係

未婚者の、地域とのつながりについての考えと結婚願望の関係をみると、「前向き」な考えについて「強い」群と「ふつう」の群では「結婚したい」割合がともに約8割なのに対し、「弱い」群では約6割となっている。一方、「後ろ向き」な考えについては、いずれの群でも「結婚したい」割合は7割台となっている。

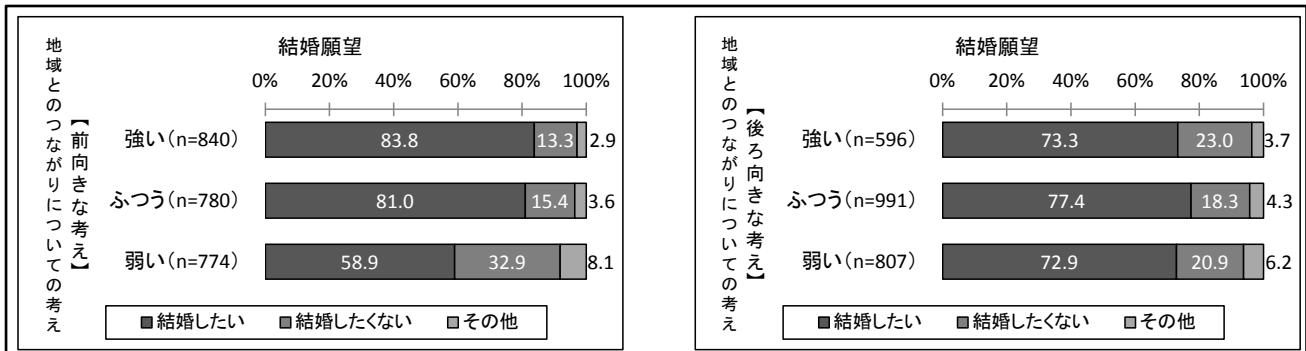


図6-2-5 地域とのつながりについての考えと結婚願望の関係

注) 結婚願望については、「早く結婚したい」、「いい人が見つければ結婚したい」、「いつか結婚したい」の3つをまとめて「結婚したい」として集計している。

⑤ 地域とのつながりについての考えと子育て願望の関係

子供がいない人の、地域とのつながりについての考えと子育て願望の関係をみると、「前向き」な考えについて「強い」群と「ふつう」の群では「子供は欲しい」割合がともに7割台なのに対し、「弱い」群では約5割となっている。一方、「後ろ向き」な考えについては、「ふつう」の群では「子供は欲しい」割合が約7割、「強い」群と「弱い」群では「子供は欲しい」割合がともに6割台となっている。

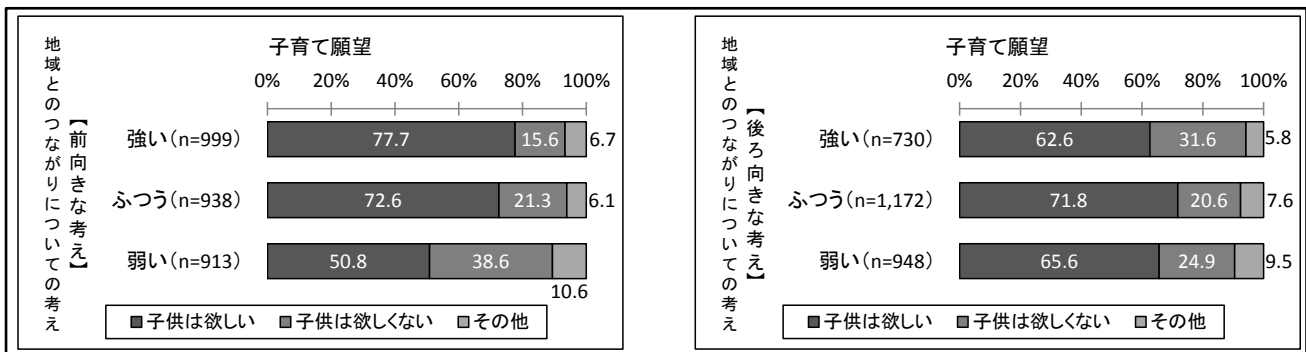


図6-2-6 地域とのつながりについての考えと子育て願望の関係

注) 子育て願望については、「結婚したらすぐにでも欲しい」、「夫婦2人の生活を十分に楽しんだ後に欲しい」、「夫婦生活が安定したら欲しい」、「結婚したいと思わないが、子供は欲しい」の4つをまとめて「子供は欲しい」として集計している。

⑥ 「一人が楽である」と地域とのつながりについての考えの関係

結婚していない理由のうち「一人が楽である」と地域とのつながりについての考えの関係をみると、地域とのつながりについて「前向き」な考えも「後ろ向き」な考えも、「一人が楽である」に「とても当てはまる」人で「弱い」割合が最も高くなっており、ともに3割台である。

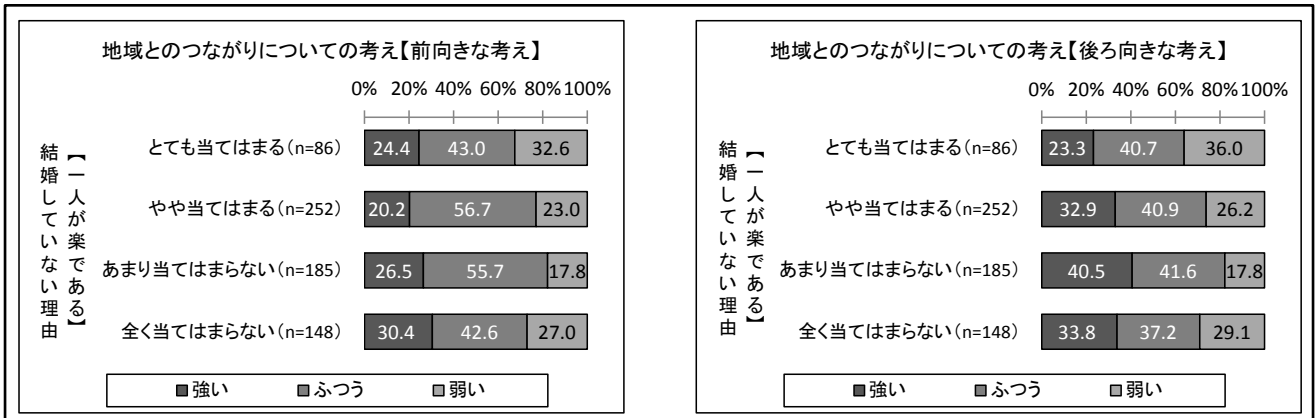


図6-2-7 「一人が楽である」と地域とのつながりについての考えの関係

⑦ 子供の存在についての考えと地域とのつながりについての考えの関係

子供の存在についての考えと地域とのつながりについての考えの関係をみると、家族の「継続」を重視する家族観も「生きがい」を重視する家族観も、それぞれ強いほど地域とのつながりについて「前向き」な考えも強くなる一方、「後ろ向き」な考えについては「前向き」な考えほど子供の存在についての考えと強い関係がみられない。

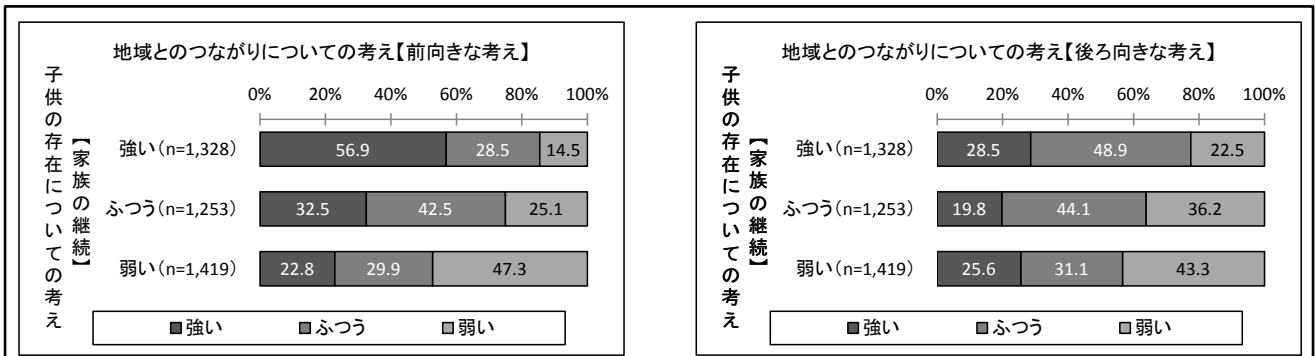


図6-2-8 子供の存在についての考え（家族の継続）と地域とのつながりについての考えの関係

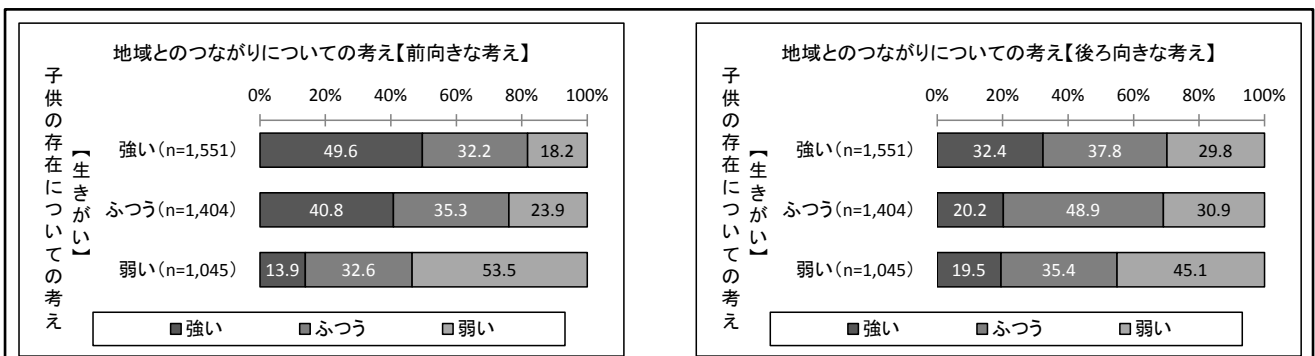


図6-2-9 子供の存在についての考え（生きがい）と地域とのつながりについての考えの関係

<調査結果の補足>

(1) 平成 20 年度調査の調査対象について

平成 20 年度調査（「これから親となる若者の就労観、結婚観、子育て観に関する調査研究」）は、全国の 18 歳から 29 歳までの男女を対象としており、年齢ごとに男女各 100 名から回答を得たものである。そのため、平成 20 年度調査の回答者のうち 20 歳から 29 歳までの回答を抽出し、本調査の回答者のうち 20 歳から 29 歳までの回答と比較している。

(2) 合計得点の分類について

子供の存在についての考えに関する因子、及び地域とのつながりについての考えに関する因子の合計得点の分類には、次の計算式を用いた。

$$\text{「弱い」} \leq (\text{平均} - \text{標準偏差} \div 2) < \text{「ふつう」} < (\text{平均} + \text{標準偏差} \div 2) \leq \text{「強い」}$$

また、全ての体験、時期別の体験、種類別の体験の合計得点の分類には、次の計算式を用いた。

$$\text{「少ない」} \leq (\text{平均} - \text{標準偏差} \div 2) < \text{「ふつう」} < (\text{平均} + \text{標準偏差} \div 2) \leq \text{「多い」}$$

なお、集計の対象となる回答者が限定される場合は、その回答者群について平均及び標準偏差を計算し、分類している。

(3) 回答率の数値について

設問ごとの回答率の数値は、小数第二位を四捨五入している。

【問い合わせ先】

国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

TEL : 03-6407-7747, 7741 FAX : 03-6407-7619 E-mail : kenkyu-soumu@niye.go.jp

※本冊子は、下記ホームページにも掲載しています。

http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/111/